2—291

島田三郎・安部磯雄監輯

第三巻第七號

主張　社會之改良・風紀之廓清・男女之貞潔・家庭之和樂

目次

▲濱松遊廓市營論……早大教授 安部磯雄
▲男女兩尊……早大教授 內ケ崎作三郎
▲日本の婦人問題……高島米峰
▲日本の名譽と在外娼婦……英國聖公會教會監督 セシル
▲娼婦と花柳病……帝大教授醫學博士 土肥慶藏
▲花柳病と眼科との關係……醫學博士 小川劍三郎
▲花柳病と精神異常……醫學博士 三宅鑛一
▲雜誌之雜誌……
▲糟糠の妻は捨て度がる……文學博士 姉崎正治
▲夫の心を心とせられし後藤夫人……婦人記者
▲嬰兒の精神的育て方……婦人記者
▲家庭衞生瑣談……記者
▲大連の十錢會……根岸連治
▲墮落書生の廢業妨害……記者
▲廢娼の歌(南海女)(露衣)△禍なる賤業非町民(KY)△最近の自由廢業其他

會員の義務

一成るべく同志を糾合して會員の增加を圖ること、輿論の勢力を作るには同志の一人にても多からんを要す。

一不用の雜誌は可成知人の間に廻付して主張の徹底を計ること。

右會員諸君が、自らのデユーチーとして御實行あらむことを希望す。

出版書目

歐米諸國 醜業公認制度廢止運動
定價一冊 拾五錢 郵稅貳錢

右は先般本邦に來援せられたるモーリスグレゴリー氏の著書を飜譯せしものにして、安部磯雄氏の嚴密なる校閲を經たるものなり。自己の研鑽の爲め將又主張貫徹の爲め、最も有力なる武器なり。奮つて購讀あれ。

廓清叢書第一卷 公娼廢止論 伯爵 大隈重信述

廓清叢書第二卷 此罹災者を救へ 救世軍大佐補 山室軍平

廓清叢書第三卷 道樂者への强異見 救世軍大佐補 山室軍平述

廓清叢書第四卷 自由廢業を奬勵する理由 廓清會理事 益富政助述

廓清叢書第五卷 廓清會組織の趣意 廓清會長 島田三郎述

廓清叢書第六卷 公娼制度と社會の風儀 廓清會副會長 安部磯雄述

定價一冊各貳錢 郵稅六冊迄貳錢

本會に所用の方は
東京神田區美土代町三丁目三番地
廓清會本部
宛に願上候

會費の納入

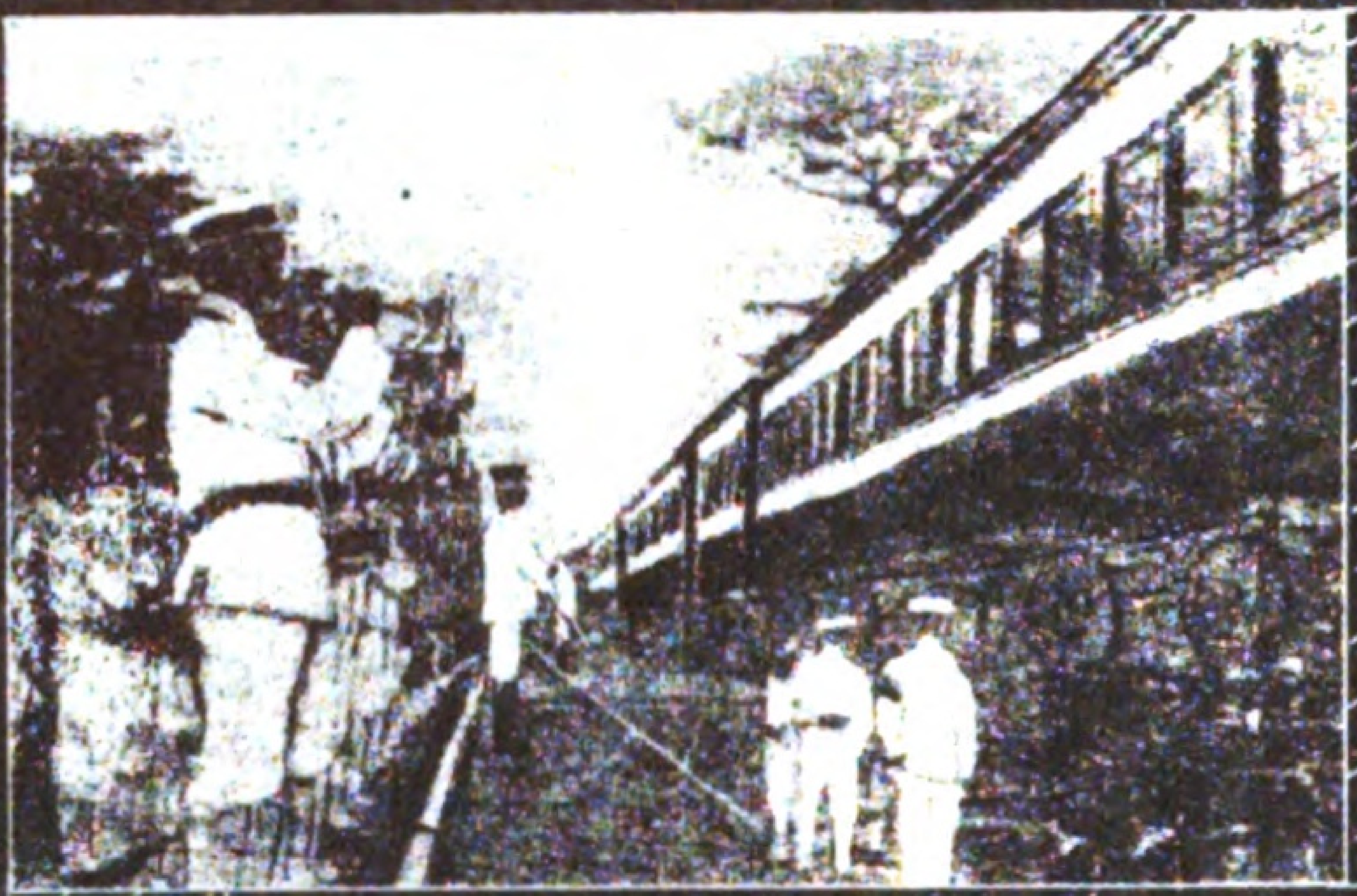
會費は郵便爲替、又は振替貯金東京一九五三三番益富政助に拂込ま〻たし。

（注意）前項振替口座一九五三三番は益富政助氏名儀にして廓清會所有にあらず、依て御送金の節は、必ず益富政助宛に御拂込相成たし。但し裏面に「廓淸會費」と明記ありたし。

大正二年七月十四日納本　一部定價金六錢
大正二年七月十五日發行　（每月一回十五日發行）

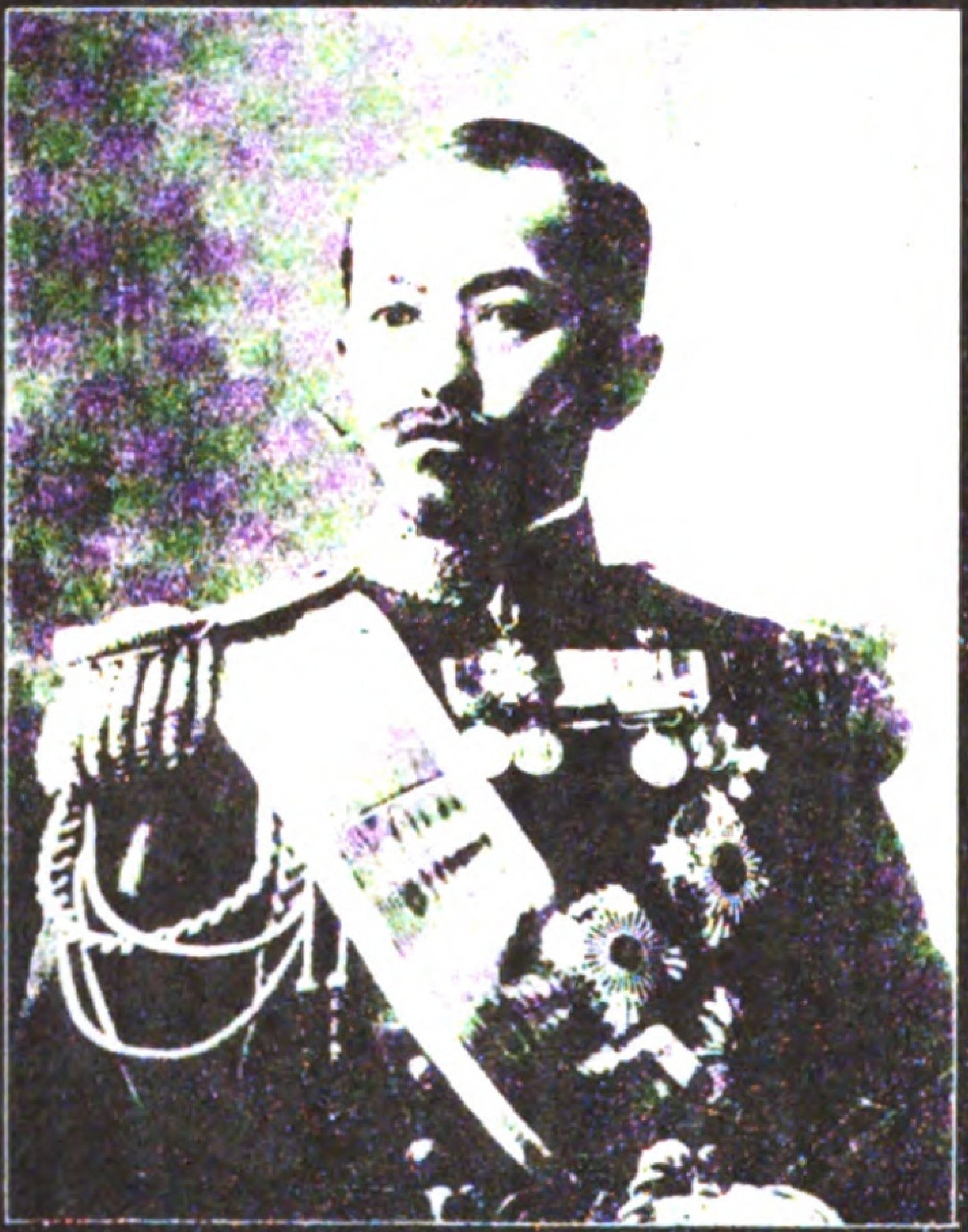
編輯兼發行人　神田區三河町一丁目十四番地　伊藤秀吉
印刷人　神田區三河町一丁目十四番地　小林照雄
印刷所　丸利印刷所
發行所　神奈川縣川崎町砂子百三番地　廓清發行所

嗚呼有栖川宮威仁親王殿下



靈柩舞子御發引

舞子急設無線電話



御肖像

御筆蹟

御本邸

靈柩御本邸着

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

濱松遊廓市營論

廓清會副會長　安部磯雄

濱松市にては遊廓を移轉し、之を市營とする事に決定し、調査委員を擧げたといふ事が、本月四日の朝日新聞によつて報せられた、斯ういふ突飛な企てが事實であらうとは殆んど想像し得ない處であると共に、偏に其虚報ならん事を望んで止まざるものである、が、何しろ信用ある朝日子の傳ふる處であるから、全く根據のないことではあるまいと思はれる。本部は卽ち之を靜岡支部へ照會して調査方を依賴したのであるが、本號締切り迄には回答を得る事が出來なかつた。で兎も角も內容の如何に不關機會を逸する事なからんやう、其是非を論議し、敢て濱松市民の覺醒を促す事とした。

（一）公娼制度是認の態度を排す

遊廓の市營といふやうな事は、自分は勿論反對である。何となれば遊廓の市營は公共團體が公娼制度を是認する事になる、これが反對の第一點である。

今日の政府が公娼制度を布き、稅金を徵して居るといふ事が既に明白なる誤りである、人身賣買は日本の法律では出來ぬことになつてゐて、あの精神を押し進めると、今日の政府が許してゐる公娼制度の存在は出來ない筈である。それを政府は故意にまげて解釋し承認してゐる。併し中央政府は之を是認してゐるといふものゝ、心ある人は皆排斥してゐるのである、然るに地方の自治團體が自ら營業するといふ事になつたなら、益々公娼制度に對する是認を與へる事になるから、吾々は斷じて反對せなければならぬのである。

近來市といふものが自ら色々な事業を行ふといふ傾向が、歐米諸國を見るに著しく起つてゐる。電車、瓦斯、電氣、水道等の市營は勿論、墓地、埋葬などのこと迄行つてゐる處があり市の事業は益々擴張されつゝあるのであるが、市が貸座敷營業――賣淫の營業をなすといふ樣な事は、何處にも類のない事で、斯ういふことを自治團體がやつたらそれこそ世界の物笑ひであらう。持論として私は市營事業の發達を喜ぶものであるけれども、賣淫業の市營に至つては絕對的に反對せざるを得ない。

（二）文明は自然に或制限を加へるのが原則

次は、公共團體が自ら貸座敷業を營むといふ事は、醜業を益々公にする事になる。之が反對の第二點である。

男女間の醜關係は之を全滅せしむる譯に行かぬから、せめて社會の風紀上斯ういふものを暗い處に押し込めて、出來得る丈秘密にしたいといふのが、平生我々の主張しつゝある處

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

であるが、世の中には隨分誤解があつて、惡い事であつても秘してやる事はない、公にした方が寧ろ罪がないといふ樣な考を有つてゐるものがある。實に大變な誤りである。文明の原則といふものはさういふ事を許さない、若し自然に行ふべき事は公にやつてもいゝといふ事ならば、そは今日の文明を野蠻時代の昔に立歸らしむるものである。譬へば極暑い時は自然の要求からすれば裸體になりたい、大道を褌一つ腰卷一本で歩いた方がいゝのである。けれども今日の文明はそれを許さぬ。身體の全部を掩ふのは習慣かも知れぬが、それが文明である。男女關係は自然と云へば自然であるから、極野蠻時代の樣に人の前に公然と行つてよさゝうなものであるけれども、文明の思想から云ふなら秘密に行ふのが習慣でもあり且つ當然でもある。

自然主義といふけれども、文明はいくらかの制限を加へるのが通則で、人間は自然に向つて或制限を加へるのが原則である。男女の關係の如きは公然に行ふ可きものでなく、密に行ふべきものである、これが公娼制度に反對する要點で、公共團體が行る事になれば誰の眼にも見ゆる、醜業の公行であるから我々はどうしても、貸座敷の市營に反對せざるを得ないのである。

（三）瑞西の酒專賣と禁酒運動

第三の理由は、貸座敷の市營といふ事には、實際上撞着が必ず起つて來る。

抑々濱松市は社會公衆の爲になる事業を直營せんとする者であらうか、それならば乾度目的を達する事が出來、社會の

幸福を増進せしむるであらう。抑々亦濱松市は道德上にも風教上にも善くない事を營業せんとするであらうか、それならば全く其目的を達する事なしに終るであらう、私は今好個の實例を市民諸君に提供しやう。

自治團體ではないが、國家で酒の營業をやつてゐる處がある、露西亞の如き、瑞西の如きは即ちさうである、自分の今語らんとする處は露西亞ではない瑞西の事である。此國では酒は國家の專賣に屬し個人の營業を許さない、一體酒は善いものであるか惡いものであるかと云へば、惡いものであるといふ事を何人も知つてゐる。それなら其惡いものを國家が何故に專賣をするであらうか、其點に於て公娼と頗る似通ふてゐる。ところが瑞西が酒專賣をやつて來た理由に餘程面白い味ふ可きものがあるのである。

元來國家が營業をやるのに二つの目的がある。一は收入を目的としたもので、日本の煙草專賣、鹽專賣の如きは之に屬する。今一つは國民の衞生を考へ、可成害毒の少いものを供給したい考で、國家が營業を行る場合がある。瑞西の酒營業の如きは即ちそれである。個人にやらせると惡い酒を造るから、出來るだけ害の少い酒を造らうといふのが瑞西の希望である。同時に之を飲む者が少くなるやう國民が之を飲まなくなるやうにする事が營業の目的でなくてはならぬ。其點に於て瑞西は理想的である。一方に酒をこしらへ乍ら他方に於ては盛んに禁酒運動をやつてゐる。之が爲めに國家は年に十萬圓を支出して飲むな飲むなと敎へてゐるのである。かくてこそ始めて首尾一貫、精神がよく徹つてゐると思ふ。酒は元來飲まぬ方がいゝといふ土臺の上に立つて、段々飲酒家の少

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

くなるやう禁酒運動を國家が同時に行つてゐるといふ事は、我々の味ふべき處ではあるまいか。

《四》何れより觀るも不法暴戾なり

新聞紙に傳へられたる濱松市の遊廓市營が不幸にして事實であるならば、先づ我々は其目的の那邊に存するかを問はなければならぬ、其目的が市の財源にしやうとする收入にあるであらうか、或は公娼制度の弊害を認め、模範的遊廓を建設せんとするのであらうか、若し前者であるといふならば言語同斷である。如何に下らぬ市會議員の集つた處でも、之によつて財源を得やうといふが如き暴戾無道なる計畫であらうとは信じ得ない。目的はどうしても後者であらねばならぬ。卽ちどうかなるべく現在の遊廓の弊を矯め、女郎買などする樣な大馬鹿者の少くなるやうに、出來得るならば絕滅するやうに、己れの娘を食物にする樣な不埓者の出でないやうに、娼妓になつて尊い操の切賣をしようといふ不都合者の起らぬやうにといふ、人道擁護の爲め、社會風敎の爲め、瑞西の酒專賣の如き方針の下に立てられたる企てゝあらねばならぬ。

果してさういふ立派な考に出でたのであるならば如何、私は曩に述べた理由を再びして反對する、そして第一性質上市でやるべきかどうかを問ひたい、さういふ偉い考があつて、公娼制度の弊を矯め、之を滅ぼさんとする高尙な考であるならば、全く貸座敷營業は無意味である、意味をなさないではないか。そんな事を公共團體がやるよりも、大に輿論に訴へさへすれば直に制度其物を廢する事が出來るではないか、さういふ迂遠極まる道を態々取らなくとも、直情徑行、追手から旗皷堂々、公娼制度の牙城に迫つた方が、どれ程近路でもあり容易であるかも知れない。

然らば、濱松市では私娼制度までも無くせんとする高遠な理想に基くものであらうか、それならば始めから遺憾ながら出來ない相談である。到底市などの力を以てなすべき事ではなく、自ら賣淫の模範を示すやうな意志を以てして、根帶深き私娼制度の倒れやう氣遣ひはないのである。

《五》濱松市民の良心の健在を祈る

卽ち公娼制度破壞の目的に出でたりとすれば、寧ろ輿論を以て中央政府を動かすべしである。市自身の遊廓を一掃するが如きは一投足の勞のみである。私娼制度迄も亡ぼさんとするものであるならば、性質上市自ら營業をするが如き態度にては出來ない相談である。

して見ると遊廓市營は、何れから見るも無意味であつて、苟も自治權を有する團體が、自ら斯かる營業をなす事は、愈々罪惡を承認し、風敎を惑亂し、道德を破壞するもので、さらぬだに吾徒の排しつゝある公娼制度を認めしむるものとして、吾々は飽迄も反對しなければならぬのである。

或は私のいふ處は的なきに矢を放つものであるかも知れぬ私はそれを希ふものである。どうか之が虛構の報道であらん事を切望するものである。が不幸にして煙のあがる處多少の火があるのならば、よしそれが一二爲めにする者の企てゝあつても、假りにもさういふ愚劣暴戾なる計畫に耳を藉す事なからんやう、否一喝の下にさういふ痴漢を慴伏せしむるやう濱松市民諸君を警告し、其良心の健在を祈るものである。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

男女兩尊

早稲田大學教授文學士　内ケ崎作三郎

近來世間ではやうやく婦人問題が八釜しくなつて來て、殊に重なる雜誌が特別に婦人號を出すなど〻云ふのは、どうやら私共が待ち望んだ時期が到來したやうに思ふ。

昔から、どんな野蠻國に於ても、女の神は崇拜したものである。なぜなれば植物等を見るに、種を蒔くと地から芽が出て段々のび、花が咲き遂に實がなる。人間も婦人の胎內から生れ出て、だん〲成長して一人前になるのである、だから女には不可思議な地球の性があるものとして拜むだのである日本などでも天照皇大神は女の神となつて居る。ギリシャ、ローマは素よりペルシャにも女神があつた。

さて斯くの如く女の神は崇拜したが、不思議な事には、實際に於ては女をあまり尊敬して居ない、否寧ろ卑しめて居た歐洲でも婦人が眞に尊敬されるやうになつたのは十九世紀に入つてからの事である。

○

が茲にユダヤ敎は婦人を如何に見たかと申すに、私共舊約聖書を讀んで見ると、妾を有つて居たとか、若くは二人も三人も細君を有つて居たなど〻書いてあつて、大變に女を卑しめたやうであるが、それは今日の道德律から見るからで舊約は今より四千年前の記錄、其時分の一般社會より云ふとユダヤ人は非常に婦人を保護し、婦人を尊敬する事を知つて居たモーゼの法律だと傳へられてるものを見るに、婦人が夫のために貞操を疑はれた時の裁判方法が書いてある。但し其時分は妻が貞操を疑はれた場合には、夫のために殺され、假令八裂にせらる〻とも、何とも云ふ事が出來ない、當然の事だとあつて誰もこれをとがめなかつた。けれどもユダヤ敎にあつては、か〻る場合、婦人は夫と共に神の宮に行き祭司の長の面前に出て、一杯の水の中に殿堂の下の土を入れ、これを女が飮む、而して眞に貞操を破つてるものなら體が腫れる、でないと何の變化もない只それだけの事である。英國などでさへ百年前まで死刑となるべき犯罪が二百廿三種も有たのである。然るに是が三千五百年前の婦人の待遇だと云へば如何にユダヤ敎が婦人に對して寬大で有たかゞ知られるのである。

又タビデ王やソロモン王の如きも澤山の妻を有つては居たが、これを善い事としては居なかつた、惡るい事だと思つて居た、だから良心の苛責をうけて、殊にタビデ王の如きは非常な煩悶をして居る。これが三千年の昔、而かも他國人は平氣でそんな事をやつて居た時代である。又ユダヤ人がバビロンより歸つた後、當時の預言者は妻を離別するもの〻やうやう多きを見て、「彼女は汝の友、汝の契約したる妻なるに汝何ぞこれを捨つるや」と云つて責め且つ戒めた、云ふまでもなく婦人のために辯じ、婦人を保護したのである。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

キリストは又婦人を如何に見られたかと云ふと、寧ろ男子と云ひ婦人と云ふ區別をされない、男子の内にヒユーマニチーを認められれば婦人の内にも等しくこれを認められた。「女子供」と云ふけれどキリストは其子供を「天國に居るものは斯くの如きものなり」と祝福された。「故なくして妻をさる者は姦淫をなさしむるものなり」とまで云つて婦人を保護された。これは今日でこそ何でもないやうなものゝ當時にあつては實に破天荒の思想であつたのである。

げにエスの生涯には幾多の女性があつた、新約聖書の初めを見ると、何れの書も先づ聖母マリヤを讃美してる、即ちキリストの傳記はマリヤに依つて初まつてゐる。而してサマリヤのヤコブの井戸の女、ベタニヤの姉妹、又醜業婦であつてヒステリーを癒して貰ひエスに仕へたマグダラのマリヤもある。キリストが傳道される間、或はすゝぎ洗の勞をとり、或時は兵粮方となつて常に之を助けたのは女の弟子であつた。キリストが十字架につけられ、多くの弟子等は皆西に東に離れ去つた時最後まで師のそばをはなれなかつたのはマグダラのマリヤである。三日目にエスの復活し玉ふたとの御仰を最初に得たのも矢張女の弟子である、だからどうしてもキリストの生涯より女性を除り去る事は出來ない、と同時にキリストが如何なる態度を以て婦人を遇し玉ふたかも知られるのである。又ポーロが神の命により大胆にもヘレスポンド海峽を渡つて歐洲に入つた、之は實に大事件である。波斯のザークセスが百萬の軍勢を率いて行つたよりも大事件である。なぜかといふと是が實に歐羅巴に於る基督教文明の起原であるからである。其時第一にこれに耳をかたむけたのは女である。歐洲に於けるキリスト教史の第一ページのイの一番は實にルデヤと云ふ女であつた。或教會では女を執事にするせぬで問題になつてゐる處もあるが、二千年の昔既に女の執事があつた事はポーロの書簡にも明である。最も教會を尊重し教會なくば基督なしと信じてゐたポーロが、既に女の執事を認めてゐたといふ事は實に味ふべき事である。

○

思ひ見るに昔より今日までキリスト教の如く婦人のために骨を折つた宗教はなく、婦人の權利を擁護するにこれ程つとめたものはない。されば古來キリスト教界に於て婦人のなしたる働もまた偉大なものである。中世紀の長い暗黑時代を通じて一導の生命を傳へたものは實に基督教界の婦人であつたとさへ云はれて居る。キリスト教の光榮は婦人が男子と共に働いてくれたと云ふ事にある。

一體日本の婦人は權利を放棄する事を何とも思つて居ないが、婦人の發達はやがて男子の發達である。ダンテの神曲を見ると彼は戀人の導により天上界にのぼつた、即ちはるかに高く現はれた戀しきベアトリスの顔を見てる間に知らず識らず自分も天國にのぼつてしまつた。私共も婦人に同情し、婦人の權利を擁護し、婦人の地位を高めて、これを見てる間に知らず／＼自らも高くなり行くのである。世間では男尊女卑にあらざれば女尊男卑を云ふが、私共の理想とするところは男女兩尊主義である。婦人も教育を受くるの權利があり又職業を求むるの自由がある。女子に貞操を要求するならば、男子にも之を要求すべきで、かくして共に人生を負擔して行く根本原則はこゝにあるのである。（文責在記者）

論議

日本に於ける婦人問題

六　高島米峰

（一）東西の婦人觀

婦人に關する考は處によつて色々に異ふ、支那の孔子等の思想、印度の佛教の思想は、根本に於て女はつまらぬものだとしてゐる。孔子の言葉に「女子と小人は養ひ難し」といふのがあり、女はつまるものと云つたものは古い處ではない、佛教にも「外面如菩薩内心如夜叉」と云ふてゐる。或は女に幾つの罪があるとか、これ〳〵の障りがあるとか、五障三從などいふのがある。或は十惡ありなどゝ云つて盛んにケチをつけてゐる。三從は儒教にもある、儀禮に「親に從ひ、子に從ひ、夫に從ふ」といふてゐる、五障といふのは女は天輪上王になれぬ、梵天になれぬ、帝釋になれぬ、魔王になれぬ、佛になれぬといふのである。外のものは兎に角佛になれぬとあつては大事件である。基督教にしても若し女が神になれぬとあつては大變である。處が佛教には女は罪深うして佛になれぬと明に書いてある。佛教の立場から死んだ後に神になれぬ處から、生きてる時に女をお神さん、山の神などいふ尊稱？を奉るのかも知れない、そんな事は嘘であるが佛教の中でもそれは可愛想だといふので、阿彌陀如來が四十八願を起し三十五願で女も佛にしてやるといふ許しを得たと書いてあるこの女人成佛の誓で、これで漸く女も佛になる事になつた。併し女には十惡があるから女の儘では佛になれぬから、變性男子といふて一度女を男に生れ變らしてから佛にする事になつた。之が彌陀の大悲である。

斯ういふ風に佛教は飽迄もつまらぬものかといふと、大乘の立場から云へば男女の區別はない、六法來經には夫婦の關係を說き、女に利益の事を書いて、殆んど女尊男卑の域に達してゐる。増一阿含經には女に五つの力があると云つてゐる希臘あたりでも「女は月經のある動物である」とか、ショッペンハワーは「女は子供を生む爲のものである」と云ふ樣な酷評をしてゐて、一概にも云へないが、大體に於ては西洋は婦人の力を認め、東洋では之を認めないと云ふ事が云へる、そして日本は何處の思想を一番多く受入れたかといふと、印度及び支那の思想で、從つて男尊女卑である。

近頃西洋から大分婦人解放の聲を輸入してゐるが、之も可なり古い、私共が若い時巽小次郎氏の女權沿革史を讀んで成程と感心したものだつた。それが最近になつて激しくなり、日本でも靑鞜社とか眞新婦人會とかいふものが躍然と起つて女はつまらぬものでないと威張つてゐる。

（二）諺に表はれた日本人の婦人觀

私は日本人の婦人觀に就て、昔からの諺を大分集めてみた、諺は國民思想の反映であるからである、處が深山の中から、として女をよく云つたものを見出す事が出來なかつた。

「女は受身」これには色々の意味がある「女は賣物」女は化物」「女は魔物」「女は亂の基」「女は男の慰み物」「女が牛の綱を跨げば切れる」「女が砥石を跨げば破れる」夫婦の關係には「女天下は喧嘩が堪へない」「七人の子をなすとも女に心許すな」といふのがある、女はまた不經濟と見えて「女戸主は三年續かぬ」「女三人あれば身代がつぶれる」又「女の好きは芝居、蒟蒻、芋、南瓜」といふ經濟的なのもあるが、芝居道樂は有難くない、「女は着物が命から二番目」女の虛飾は誠に困つたもので、之が爲に幾多の夫を苦しめるか分らぬ。併し食はせると食はせられるとは果して何れが偉いかといふ事は問題である。

「女は下げて育てよ」女はさうでなくとも高ぶるものだから家柄よりは引下げて敎育せよ」といふのである、「女賢うして牛賣り損ふ」「女の賢いのと東の空明りとは宛にならぬ」「女童の知る事ならず」「女の猿智惠」「女の智惠は後に廻る」「女の話は人里限り」「女の悧巧より男の馬鹿がよい」「女の張る弓はいらぬ」「女は三界に家なし」「女に十二の角あり」子を生む度に一本づゝとれるといふ。

「女の笑靨には城を傾く」之は女の罪といふよりも男が馬鹿なのである、貞操の如きも、女が破るとか破らぬとか云ふが、男が之を脅かさればそれでいゝ、又女の靨には城を傾る馬鹿があるやうに男の誘惑脅迫の爲に貞操を破る弱い女があるから、かういふ問題が起る、若し女が飽迄男のいふ事をきかぬなら一切の問題は消えて了ふ、處が誘ふ水あらば去なんとぞ思ふから、女が貞操を全うせぬのといふ問題が起る、男にしてもさうである、女から挑まれても男が頑として應じなければそれ迄である、處が意志が弱く、すぐに降參して了ふからつまらぬ問題が起きるのである。

「女は口善惡なし」これなども私は日本の女がもう少しほんとのお喋りであつて欲しいと思ふ。冗らぬ話には隨分雄辯であり乍ら大切な事になると口籠つて何も云へない「女は閾を跨ぎ乍ら七十の謀反を企らむ」などは隨分酷い、「女は地獄の使」之れなども思ひ切つた惡口で、華嚴經の中にある言葉を其儘用ひたのだらう「罪惡の後には女あり」斯ういふ風に數へて來ればきりもないが、要するに女を譽めたものが見當らない。

「女ならではよの明けぬ國」これは「日の本は天戸神樂の昔より」の歌から取つた諺であるが、よく云つた意味か惡く云つたものか分らぬ。けれども、日本の女性の大なる誇りは玆にあると思ふ、天照皇大神といふ女性の御血統によつて建國せられ、連綿として二千五百年、此帝室を仰ぎ奉つてゐる我大和民族の女性には、斯うした大なる誇りがある。

《三》男子は交戰の明分を有せず

以上の如く、日本は儒敎佛敎の影響を受けて女を認めなかつた。然らば今後、將來もさうでいゝではないかといふ事であれば、それは贊成が出來ない。

日本に佛敎が這入つた始め、聖德太子が勅命を奉じ、多勢の僧侶があるのに自ら袈裟をかけて讀まれたお經は何であつたか、それは勝鬘經であつた。勝鬘經といふのは勝鬘夫人の書いた――女の書いたお經である。之が今日の新思想と悉く調和するか否かは別として、婦人の書いたお經を勅命を奉じて、一番眞先に日本に於て、外に僧侶が澤山ゐるのに身自ら態々此經を選んで讀まれたといふ事は、女を蔑視すべからざる事を實際に於て示されたものであると思ふ。而も日本に於ての眞先の坊さんは女であつた。（基督敎でも波羅がヘレスポンド海狹を渡つて歐羅巴大陸に入り、傳道した最初の信者は女であつた）これは女は佛になれぬなどゝいふ佛敎の古い思想を事實に於て打壞したものである。聖德太子は實に偉い方であつて、太子の樣な方が今日迄幾人も日本に出たら、もつと日本の婦人に關する思想は進んでをつたらう、唯に女に對してのみならず、佛敎に對する思想も、今更らしく我々が新敎敎などゝいふ必要はない、聖德太子は非常に其點に於て卓見を有し進步的思想を持つてをられ、大體に於て我々の考と一致しゐるのである。

それから段々女が壓へられ、男許りのさばり、遂に女が男に反抗する丈の氣力すらなくなつた、處が此頃に至り西洋の思想が入つて來て、女が男に反旗を飜し、女が男に戰を挑むに至つたのは、誠に止むを得ない事と思ふ。我々は砲火を交へない內に讓步しなくてはならぬ。我々は婦人達の宣言に對しては戰ふべき明分を有しないのである、だから今迄橫領してゐた領分を返却して妥協交讓する外はない。

女が今迄押へつけられゐたのを自覺して、男に對して自分

の權利を要求さるれば我々は之を拒絶する權利はないのであるが、唯此に我々の遺憾に思ふのは、自覺は甚だ結構であるけれども、手段に多少非議すべき點があるやうに思ふ。

（四）人間としてならぬ行

靑鞜社が男に對して反抗し、奪はれた權利の返却を要望するのはよいが、男がしてさへ惡い行ひをやつて得たりとしてゐる。男に反抗するといふ心持から男がやつてよくない事迄やるのは手段を誤つたものと云はざるを得ない。

假へば吉原に行つて娼妓を買ふといふ樣な事をしてゐる。斯ういふ事は女がやつてよくないとか、男がやつて惡いとかいふ問題以上に、人間がやつてならぬ事である。まるで問題にならない事である。それを今の世の中は吉原洲崎といふやうな公娼を認可して、稅金を取るといふ樣な妙な事になつてゐる。けれども之は男がやつても惡く、女がやつても惡く、いや人間としてなすべからざる行爲で、男に行くものがあるから、女も行くといふのは、思想界の先覺者として、いはれなき桎梏を脫して婦人の個性を認めさせやうとする、所謂自覺したる婦人、革新運動を試みらるゝ諸君に、あるまじき行であつて、女自らの品位を損ひ、女自らの主張を毀けるものとして詰責しなければならぬと思ふ。

更に或は銘酒店を冷かして、居酒屋に行つて酒をのむでゐる。斯ういふ事は男がして構はぬ事なら、それは女がしても構はぬであらう、けれども私達の立場から云へば、酒や煙草をのむといふ事は男がしていけないとか、女もして惡いとかの問題以上に、人間がして惡い罪惡なのである。

女が人間でないといふならば卽ち止む、今迄女は人間の仲間入をさせられなかつたから今度人間としての權利を得やうといふ婦人、男子の壓迫から取返へさうといふ覺めた新しい婦人が、自ら人間として爲すべからざる行をしようといふのは矛盾も亦甚しく、其目的を大成する上に於ても採らざる處である。

（五）實行の上に品位と識見を示せ

さういふ新しい婦人の身の上では、到底眞に覺めたものとは云へない。覺めた婦人は男子に戰を挑み、自己の權利を主張するよりも、實際に於て自分の品位、識見を示すが一番である。婦人問題を論究する席上に、大多數は男子で、婦人は一二人しかないといふ樣な現今の狀態では、いくら女が威張つても駄目である、五十人の會衆中廿五人の婦人を見るやうにならねばならぬ。實行が其主張に伴はねばならぬ、五十人の中に廿五人の婦人があれば男子は讓歩せざるを得ない事になる。之は敎育機關の不備もあるが、參政權運動の如きも必要のない事だ、實行に於て其實力を示すが捷徑でもあり、當然でもある。女子席といふ樣な札が下つてゐる間は駄目である。女子席と書かねばならぬ程女子が少いので、男子より多ければ男子席といふ札が下るであらう。さうなれば文句はないつまらぬ枝葉の事など爭ふ必要はない。

這麽事では到底著しい革新を擧げる事は出來ない。實力ある婦人が出て來れば爭はなくとも解決する、男女交際にしてもさうだ、階級——といふ樣な事は論ずべき點もあらうが、現在にありては——知識、境遇により男同志でも自由に同等

の交際は出來ないのだから、女が不平をいふのも考ふ可き餘地がある。湯屋の三助は、何だ俺の背中なぞ流させてと云つてゐるかも知れぬ。併し女子大學卒業の婦人と、湯屋の三助と同等の交際は婦人の喜ばざる處であらうと思ふ。理窟で彼是れ云つた處で、究意する處實力の問題に歸着する。

私の考としては、日本の婦人問題は目下教育中にあると思ふ、先づ何より教育を施して男と同じ程度に迄導かねばならぬ。教育さへ普及すれば自然に解決する。何分今日は教育が行屆いてゐない。婦人には物の分つた人が少い、男子と同等の交際をし得る丈の智力識見を有する婦人が少いのである。女も人間だといふ議論は今更教へられる迄もない、教育の普及、實力の養成は蓋し今日の急務であらう。(文責記者にあり)

日本の令聞の爲に在外醜業婦を取締れ

英國聖公會監督日本聖公會南東京地方部監督　セ シ ル

左は本會賛助員セシル氏が、時事新報へ寄せられたるものと、之に對する同紙の社説である。在外醜業婦の取締に就ても、吾人は絶えず警告を與へて居つたが、遂に國家としては最も恥かしき抗議を半公式に受取るに至つた今之を掲載して當局者の反省と國民の覺醒を促す事とする。乍併吾人の一言附け加へなければならぬ事は、取締の勵行は勿論結構であるけれども、如何に壁を越えた枝のみを刈る事に努力しても、其根柢を覆す事がないならば、百年河情を待つが如く、新しき芽は絶えず隣屋敷を見舞ふであらう。根柢は何であるか、曰く公娼制度である。

拜啓小生は、當地(東京)に於ける英國人監督としての小生に宛てたる半官的の書面を、シンガポール(英領)より受取申候。

右書面は「日本國より馬來に向つて輸入せらるゝ婦女賣買に關して、少なくとも教育ある日本人間になりとも、輿論を喚起することは出來間敷や」との事を問ひ來り申候。其書面に同封ありし二つの摘要は、次に掲げ申べく候。又此書面には「茲に述べたる事は和蘭印度人(吾人は信ず)については、尚更其通りにして、實際之は本半島の沿岸各地に於て行はれ居候」と附加致し居申候。

左表の數字によれば、在留日本婦女の數は男子に對して五對一の割合に御座候。されば此不幸なる推論を拒むことは困難と存申候。

●●●●●●●●●●

▲馬來聯邦人口調査報告(一九一一年)拔萃

	男	女	合計
在留日本人總數	三三七	一六九二	二〇二九
内譯			
ペラク在留	一二五	六二九	七五四
セランゴア在留	一一六	五七九	六九五
南セムビラン在留	七一	二六二	三三三
パハン在留	二五	二二二	二四七

(摘要)　馬來聯邦に渡來する日本人の數が、一千九百〇一年には五百三十五人なりしに、一千九百十一年には二千〇二十九人となりしは實に驚くべき增加なり。十年以前に在留せし日本人男女の數に比ぶれば、現今は殆んど各四倍となれり。此劇增はセランゴアにては餘り著しからず、此地にては只二百三十三人

より六百九十五人に増したるのみなれども、而かも聯邦一般に其劇増を感ずること甚だしと云へり。馬來聯邦に渡來する日本婦女の多くは醜業に從事する女なり、又日本の男子移民の多數を占むる下等民の中には、一定の正業に從事するもの甚少なし。

●●●●●●●●●●

▲メソヂスト協議會報告書拔萃

吾人は支那及び日本人の旅館に於て行はれつゝある多くの不道德に對して注意を喚起せんとす。此等の旅館は多くは醜業をなしつゝある家なり、或地方にては政府は既に之を禁止するの方法を採れり、吾人は凡ての宣教師に、其居住地に於て醜業の行はれつゝあるを知りたる時は、何時にても敏捷に反對せんことを勸む。

馬來聯邦等に行はれつゝ有る此恐る可き不道德行爲に對しては、何れの教會に於ても活潑なる反對運動を開始せざるべからず、醜業を營む家は漸次增加し、所謂支那人及日本人旅館は此醜業婦賣買の用に供せられつゝあり。此地方の青年は道德心を破り、身體の健康を破壞しつゝあり、爲めに早世夭折するもの多く、又此地方の青年は身に疾病を受け、健康を破りて成長しつゝあるなり。されば吾人は一般の輿論が喚起せられて、教會が奮起し、政府をして馬來聯邦と日本及支那との間に行はれつゝある、婦女の賣買を禁止する様敏捷なる方法を講ぜしめ、婦女を誘拐する者は英國に於けるが如く嚴重に罰せられんことを望む。其本國政府へ送達を請ふ爲めに一つの覺書を作りて、シンガポールの日本及支那兩國領事に送り此國々に於て現今行はれつゝある、婦女の奴隷的賣買を禁止せんことを兩政府に求め、又不道德の目的を以てせらるゝ婦女賣買を一切禁止せられんことを要求すべきを勸む、又此覺書は一通をシンガポールの植民局に送るべし。

日本國の令聞は此醜惡なる事件の爲めに馬來地方に於て汚辱せらる、故に吾人は日英兩國政府が只尊敬すべき日本婦人の馬來國に渡來するをのみ許して、此婦女賣買を一切禁止する様一つの協約を締結せんことを望む。(千九百十三年二月のストレーツ●タイムスより轉錄す)

好ましからざる移民の渡航を禁止せんことを日本國に哀訴

するは、シンガポール及馬來の爲す可き事には非ずと小生は相考へ申候。若し英國の當局者にして此移民を禁止せんと欲し候はゞ、英國當局者は自から其欲する處を爲し得る筈に御座候。併しながら日本聖公會の招聘に應じて來り、此日本國に在住する者として此事件を見る時は、小生は日本の同盟國たる英國民としてよりも、寧ろ殆んど日本人として此事件に對し、「日本の令聞」が汚されざらんことを痛切に感じ、之を保護する爲めに此地に於て出來得る限りの盡力を爲さんことを望み申候。

日本國民の名譽に對する東洋諸國に於ける此汚辱に就いて我日本政府が怠慢であり、又は不注意であらうとは小生の想像すること能はざる所に御座候。故に小生は受取たる報知により、或る程度迄此等の婦女は旅行免狀下附の規則に違犯して密航せしめられたるものと信じ、(西洋に於ける「白人奴隷」賣買の場合の如く)且つ良好なる正業に從來せしめんとの口實の下に誘拐せられ、或は少なくとも此口實によつて輸出せられたる者と信じ申候。斯かるものを防止するは何れの政府にありても非常に困難なることに御座候。併しながら此地に於て防止し得る範圍内にては、政府の手を一層有力ならしめ、警察の眼を敏捷ならしむる最良の方法は本問題に關して強盛なる輿論を喚起する事に御座候。此方法に對しては、假令娼妓につきての基督教の道德標準に贊成せざる人と雖も日本國の名譽を保護する爲めに多數の人士が協力荷擔せらるゝならんと小生は深く信ずる次第に御座候。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

セシル師の警告

時事新報

（前略）現代の文明が全然醜業婦を驅除するの力に乏しきは猶ほ貧民の跡を絕つ可からざるが如し、文明國の通邑大都、到る所に人をして顰蹙せしむるものあるは、世界の識者の常に苦痛とする所なれども、實際に如何ともす可からざる社會の病毒にして、只德心の進步に伴うて徐々に之を治療するの外ある可からず。我國の如きも醜業婦の跋扈頗る盛にして、外國人に對しても面目なき次第なれども、差當り成し得る限りの取締を加ふるのみなる其中にも、海外に渡航する醜業婦は國の恥辱を明らさまに暴露するのみならず、其大多數は惡漢の爲に誘拐せられ、意志に反して醜業を營ましめらるゝものにして、人道上看過す可からざる慘事なるを以て、政府に於ても是種婦人の密航に對しては相當の注意を拂ひ、開港場の地方廳をして嚴重に取締らしめつゝありと雖も、婦女誘拐の如き惡事を働くものは、警察の眼を掠むるの手段も甚だ巧なるを以て、密航者の數、年を追うて增加し、殊に新嘉坡を始め馬來半島、蘭領印度等の諸開港場は、殆ど日本人の手に醜業を獨占するの姿を呈しつゝありと云ふ。此狀態が馬來半島に於ける宗敎家の目に餘りたる結果、セシル師へ宛てゝ態々書面を送り同氏も亦これに關して意見を發表したるものなる可し。日本人としては如何にも慚愧に堪へざる次第なると共に、道德高き宗敎家の人々が、斯くまでに懇切なる配慮を爲すを見るときは、其配慮に對しても之を其儘に打捨て置く可らず、卽ち我輩は此機會に於て當局者が其取締をますく嚴重ならしめんことを望むものにして、殊に從來誘拐の犯罪多かりし開港場の所在地に於ては、警察官の誘拐に對する警戒的設備を一層完全ならしめ、埠頭停車場等には常に平服の巡査を配置して婦女の動靜に注意せしむるは勿論、是等の場所以外に於ても誘拓者に對する密偵を嚴ならしむるの要あり又其一方に民間に於ても是種の憫れむ可き婦女を救濟する爲めに義勇的團體の起らんことを希望せざるを得ず、英國にはナショナル、ヴイジランス、アツソシエーシヨル（國民豫戒協會）なるものあり、其會員は篤志を以て停車場等に見張を爲し、誘拐を被れる疑ひある婦女を發見次第に警告を與へ、其他種々の手段を廻らして之を救濟するの任務に從事し、之が爲めに火坑に陷るを免るゝ婦女頗る多しと云ふ、此協會はアバーヂーン卿を會頭と爲し規模頗る大なるものなれば、我國にて同樣の團體を起すは困難なる可しと雖も、差當り長崎縣、兵庫縣、熊本縣等被誘拐者多き地方に於て夫れく小規模の團體を起し、弘く篤志者の贊助を求めんには少なからざる效果を收む可きを疑はず、我輩は有志の人々に對して其發起を希望するものなり。

馬來に居る醜業婦は大抵日本人の手から支那人の手に品物同樣に賣渡されて行く。而して薄暗い淫賣宿の一隅で悲慘な野仆れ死を遂げるのが彼等の殆んど定まつた運命である。同地に於ける婦人賣買に就ては未だ何等の法律がないので、英國人は目下悲慘な此婦人賣買を日本人支那人の間にも禁じ、犯した者を嚴罰に處する運動をしてゐる。

論叢

娼婦と花柳病

東京帝國大學醫科大學教授醫學博士　土肥慶藏

博士は、我松浦博士と共に東西兩大學の斯學のオーソリチーであつて、娼婦に對する衞生的監視を如何にすべきかに就ては、吾人の最も耳を欹てゝ聞かんとする處である。而して兩博士は、現今の檢梅法を無効とする點に於て、強弱の差はあるが、殆んど一致してゐる、當局者の所見は如何、左は國家醫學會に於ける博士の講演の大要である、校閲を經ず文責記者にあり。

(一)清潔な家庭に花柳病はない

賣笑といふ問題は、既に前回栗本君が詳細お述べになり、形式上の取締は如何、衞生上から驅黴法が果して有効なりや、否やの議論になる、乍併之は大きな問題で、栗本君は御自分の說を次回にお延ばしになり、巧みに結論をお避けになつたから、私の意見を先に述べなければならぬ羽目となつた。

一體賣笑といふやうな事は、社會の暗黑面で、なるたけなら除きたいものである。併しそれは人類社會に行はれ難い事であるから、秘密にして知らぬ風をして置きたいといふ議論がある、之に就て我々は衞生上から研究を要するのである。元來賣淫に伴ふ疾病の恐るべきは、ペストや赤痢などゝ異るものではない、急性傳染病に對して國家が取締りをする以上は、此疾病の根源たる娼婦に對して衞生上如何なる取締を施すべきかといふ問題は必然に生じて來るのである、而して現今行はれてゐる娼婦の健康診斷、檢梅法なるものは果して有効なるやといふ研究の必要が起つて來る、私は今日、花柳病の恐るべき事を述べ、豫防法に就て聊か卑見を開陳して見たいと思ふ。

花柳病は、體性の病氣で所謂性交病である。日本では花柳病といふが、病氣の元が花柳の巷から來る事を思へば此語は極めて適切であるやうに思ふ。良家の若い男女が結婚して終始清潔な關係を持して居るならば、此病は起らぬ。第三者があつて家庭に移植するのである。而して第三者とは花柳社會の婦人を意味する事勿論である。

(二)都會程此病が多くなる

梅毒の中には罪のない無効梅毒といふものがある――痳病に就ては曩に痳病と家庭といふ題で話をしたから略する――性交以外に蔓延する事がある、病毒を含んだ菓子、盃、齒科の鋏等梅毒の患者が居つて其病毒が附着し、粘膜又は口から感染する、或は醫師が指の先から屢々感染する、乳母が健康でなくて乳兒に感染せしめるといふ樣な、罪なくして病毒を受入れる例がいくらもある、又罪のないのに親の因果が子に報ふ遺傳梅毒の不幸な目を遭ふものがある。以上を無効梅毒

というのであるが、斯ういふのは寧ろ除外例で、大多數は男女の關係から來、殊に娼婦から感染するのである。ブラシコーは四百八十七人の未婚者の病源が三百九十五人迄賣娼婦であつて、即ち八五、一%は賣淫婦から、一四、九%は公然の娼婦でないものから感染したといふ統計を擧げてゐる、かういふ樣な事は統計を待迄もなく直に想像の出來る事である。東京には娼妓以外に、藝妓其他の私娼があつて梅毒を逞しうしてゐる。田舍に行くに從つて病毒の蔓延が少くなる、一九〇〇年の四月三十日プロシャの醫師に命じて其日に治療した數を出させた。それによると人口一萬に就て平均二十八人であつた。伯林は一萬人に百四十三人といふ數を示してゐる、十萬人以上を有する都會では一萬人に就て百人、三萬以上十萬以下の都會では四十八人、三萬人以下の都會は四十五人、村落を合せて平均すると二十八といふ風に段々減つてゐる。之によつて觀れば怎うしても都會になる程、取締を嚴重にせなければならぬ事が分る。

處が此取締は甚困難で、一部の者の檢査を行つた處で、密に淫を鬻ぐ多數がある以上は、燎原の火に一勺の水を灑ぐやうなもので、廢した方がいゝといふ說がある、之に對する私の見解を述ぶる前に、今日は花柳病の恐るべきものたる事を兩君の驥尾に附して尙一言したいと思ふ。

（三）梅毒の恐しき影響

梅毒はいつ感染したか分らぬ場合が澤山ある。さういふ時に最も重い結果がよくある。二週間三週間經た頃に些か瘡面が表はれるといふ丈だから氣がつかないでゐるが、其時は疾患が體中に這入つてゐる、二三週間前に惡い事をした其報いは既に血液の中に這入つてゐるのである。傷を切つて貰つても血液中には繁殖してゐる。七八週間過ぎると種々なる感じ熱氣を覺えるとか、仕事をする事がいやといふやうな狀態の第二期に入る前驅が表はれる。それから身體に發疹、ホロセの樣なものが出る。若し幸に全身に發疹すれば本人も考へ醫師も誤らないが、發診をしない場合がある。斯ういふ時は外見は輕さうに思はれる。そして一月二月の中に種々な兆候が表はれる、咽喉の具合が惡いから耳鼻咽喉科へ行つて灼いて貰ふ、けれども治らぬ、斯ういふ娼妓に接しやうものなら一日二日の中に感染して了ふ。

半年ばかり經つとやんわり髮の毛が拔ける、客の前に出られなくなる、斯うした狀態がすむと、惡くなるのは命に關はる。大概は幸に略病氣が見えなくなる、之が通常年所を經たものとして樓主の着眼する、彼等社會の所謂トヤの濟んだものになる。

第二期は痛くも痒くもない、之は屢々眼も眼科にかゝり、所謂沃度加里ばかりでなく、昔は光彩梅毒だといふとサルチル酸水銀で治るから、それで責任がすむが、間もなく他の徵候が現はれる、根本的の驅黴療法でないからである。

第三期、是れがほんとの怖い時期で、輕發梅毒は却つて獰猛な恐しい結果を生んで來る。骨が腫れ、鼻が落ちるとか、外に瘡面を生ずるのは未だ忍ぶべし、皮膚の表面のみならず血管、肝臟、心臟、腎臟等、凡ての臟器に侵入して來る。そして患者はそれを知らぬものがある。過去に於ける酒毒か梅毒の爲に、天壽を全うする事を得なかつたのを心づかないも

のいくらもある。

眼科の病氣が梅毒から來るもの多數を占むる如く、內科の疾病も梅毒に原因する事が頗る多い、神經系統に於て、殊にタービス、脊髓病及癲狂といふものは、多年梅毒に原因するや否や解決せずにあつた。脊髓病はフールニエ氏が始めて梅毒に起因する事を發見し、エルフ氏之に贊成をしたけれども、一方に反對の聲も高かつた。タービスの如きも一八八〇年にメンデが梅毒との關係を、ワッセルマンの反應により、略血清の上から餘地がない迄に進み、パラリーデも六〇六號で或程度迄は首肯せしめたけれども、未だ全く解決し盡さなかつたのを、此頃野口博士が米國で純培養法を發表された。野口君の仕事は立派なもので、銀とピロカルピンを使つて鍍銀法を行ひ、二〇〇〇の中四八〇の成績だから二五%を證明し得た。即今日迄はフールニエ以來類似梅毒症として、梅毒に似てゐるといふ迄のが、ほんとの梅毒といふ事になるだらう證明した數は少いが二五%得られば結構である、技術が進むに從つて成績は擧がる。

《四》今日の檢梅醫には分らぬ

如斯梅毒の範圍は益々廣くなつて行く、そして腦を犯される人は生憎と又頭腦の明敏な、新聞記者、著述家と云つたやうな最も多く腦を使ふ、偉いもの程罹り易いのである、梅毒は第一人口繁殖の障害となる、兩親の中一人罹れば子供は流產、早產、妖死、無事に居つても虛弱で、低能兒といふのは多く親の梅毒の結果である、斯くの如く梅毒は國家の生產力の上にも害があり、生れてゐても亦害がある。

斯かる恐るべき疾病の源は娼婦であるから、之を取締り、此病を驅逐する事が出來たら、どれ位國家の上に有効か分らぬ。けれども娼婦は公娼の外に澤山の私娼がある。假し公娼の取締が遺憾なく行はれても、私娼の取締をしないならば何れ丈の効果があるであらう、こゝが廢娼論者の論點である。

我々の願ふ處は公娼の外に私娼迄も檢査して防止の方法を講せなければならぬのであるが。乍併こは今日の處行はれない事であるならば、せめて行ふ事の出來る公娼だけでもして其範圍を大海の一粟としても豫防の點に於ていゝ事であるから、やつて欲しいと私共は思ふてゐる。けれども勿論滿足する譯ではない、も少し立入つて娼妓以外にも國家が適當の方法を講せなければならぬと思ふ。其檢査の方法は何も公にしなくとも、何かの方法で出來ると思ふ。

第一私の希望する處は、少數の娼妓を政府が監督して病毒の蔓延を防ぐ事をしてゐる以上は、既にそれ丈でも現今の方法に改良の餘地がある。今日は診斷法も進み、水銀以外、サルバルサムの治療も出來たから、早く驅除する事が昔より出來る。昔は梅毒と診斷しても、第二期に入らなければ水銀膏の効力がなかつたが、今日は硬性下疳と定つたら、直にそして一層有効に驅除する事が出來るから、此方法を勵行すれば從來よりも良成績を擧げ得べき筈である。

けれども茲に私の願がある、檢梅を專門の教育を經た者に委して貰ひたい事である。普通の醫師でも出來るだらうといふ考もあらうが、それは私に眼科の治療をさするやうなもので、沃度加里を服せ、皓礬水を點眼する事も出來る、けれども嘗て私も檢梅に關係した事もあるが、梅毒だと思つて入院

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

させる患者に梅毒はない、見落す事もあるが、專門の敎育を受けないから殆んど診斷がつかないのである。痲病の出疹と梅毒を混同する事もあり得るが、專門の敎育を受けた專門の驅黴醫でなく、僅に一の講習位でやつてゐるからで、自分の讀書位でも多少の違ひはあらうけれども、さう簡單な病氣ではない。

檢黴法に就ては色々の註文もあらうが、第一は專門家を以て組織して欲しいのである。廣い東京を見てもそれが行はれてゐるや否や、地方は猶酷いのである。形式だけの、今日のやうな方法で行くなら、無い方が遙に增しである。檢査濟だと安心して遊びに行つては皆感染る、斯うなつては寧ろ弊害である。廣島の樣に專門家ばかりして、檢梅の實効を擧げしめるといふ事は最も必要な事であると思ふ、昔は專門家が足らなかつたけれども、今日は澤山ある、就職難のある一方から見ても一擧兩得である。

《五》花柳病の智識を普及せよ

然らば公娼よりは遙か多數の藝妓其他の取締を如何にすべきか、私の考へには近路がある。それは花柳病に關する智識を普通の醫師に充分のみ込ませるのである。醫師が充分なる見解を以て引受けるならばいゝのである。普通の醫師に花柳病の智識を普及させるといふ事は大切なことで、今日では大學でも皮膚科といふを虐待してゐる、皮膚病の講義などは繼子扱ひで、患者もやつて來ない、仙臺の醫專では一日に八十人の患者がある位だから、患者がないからではないのである醫者になつても皮膚病と梅毒との診斷がつかぬ、病人に對しては誠に心細い現狀で、どうしても醫師の敎育中に花柳病の敎育を充分にする必要がある、我々の友人で外科の俊才がある、それが今外科を止めて皮膚科の講座を受持つて、梅毒の講義を擔任してゐる、溫厚の君子で、折角長所たる外科を捨てゝ何故其麼事をするかといふと、やれといふから仕方がないと云つてゐる、外科としては偉大なる人であるが、皮膚病家としては子供たるを免れない、此人が學生に對してどれ丈の智識を與へ得るか、斯ういふ有樣で花柳病豫防の目的を達するといふ事は到底不可能である。

も一つは、普通の人達に花柳病の恐るべきを敎へるのである、外國には中學で講義してゐる處もある。年少の者に性慾敎育を授けるに就ては兎角の議論もあらう、けれども一人前の人に此智識を與ふるのは必要な事である。

次は國家の事業で、社會の組織を改良し、賣淫を供するものや、需要するものを無くするのである、之は無論醫師としての職業以外に屬する。

又西洋の晩婚になる傾向が經濟上の原因其他から我國にも段々盛んになつて來た。併し之は決して喜ぶ可き現象ではない、それが爲に花柳病を引受ける機會を作る事は、一個人の爲にも家族兒孫の爲にも、將又國家の爲にも慶すべき事ではない、晩婚の弊である。

婦人を敎育して、思想と德操を向上せしむるといふ事は根本的ではあるがそれは遠い話である、手近な、今日云ふて今日行へる事からかゝらねばならぬ、今日は唯私が平生考へてゐた處を、順序もなくお話したに過ぎない。

花柳病と眼科との關係

醫學博士 小川劍三郎

私は花柳病と眼科との關係を、淋病と梅毒の二つに區別してお話しようと思ふ。

○淋病と眼科との關係

淋病と眼科との關係は更に之を三つに分たねばならぬ。卽ち(一)初生兒(二)子供(三)大人である。

(一)初生兒が淋病によつて眼科との關係を起す時期は、二日目か三日目、早い時には一日で分泌物を生じ結膜炎の狀態を呈する、これが卽ち膿漏性血膜炎で、拭いても〳〵膿が漏れるのである。クレーデといふライプチヒの眼科醫が一八八一年に二%の硝酸銀水を、分娩の際湯を使つてから直に用ゆるやうになつて以來、歐羅巴では此病氣が頓に減つた。法律として產婆にこれを點眼せしめるのであるが、これは早く豫防をするとすぐ治る、十人中十人治る、處が實際に於て失明するものが澤山ある。獨逸では初生兒の盲目の三分の一は此病であるといふ、日本ではそれ以上で、產婦が淋病性の生殖器病に罹る、生れる途中で分泌物が眼に這入る、或は生後分泌物が眼に這入るのが原因であつて、產婆の敎科書にも二%の硝酸銀を點眼する樣に書いてある。併し實際は新鮮でないと効力がないのに、產婆の用ゆる物には古いのがある樣だ。

(二)子供の淋病、小兒膿漏眼は七八歳から十二三歳の女の子に多く、大抵自分の淋病から來てゐる、俗に風眼といふのは、風は靜かな處に急に起り、樹木建物を破壞して行つて了ふからで、膿漏眼の狀態を形容したものであらう。

(三)大人の膿漏性血膜炎は却々六ケ敷い、此病氣は若い人程容易で、年齡に比例して困難になる。

其外に光彩炎、表層性の光彩炎を起す、其外の部分には淋病と眼科の關係はない、視神經とか網膜とかいふ處は犯されぬ。淋病傳染の徑路を早く見出して治療さへすれば治る、自分に淋病があつて自分の眼にうつす人がある、大人なら左の眼より右に多く、それは右の指に菌がつき易いからである、世界共通の風習で、小便で眼を洗ふ者がある、殊に子供の小便をいゝとしてゐる、さうすると一生眼を病はぬと云つて、最後の一滴を眼に入れる。そして淋菌を移植して失明する樣な事が各國にある。又西洋には後產を小さく切つて眼の上に乘せて罨法か何うかする處がある、此胎盤が淋病に犯されてゐるとまた膿漏性血膜炎になる。

女中がお神さんから前掛を貰つたら、其前掛に淋菌がついてゐて失明したといふ事もある、淋病の男と一緒に寢てゐて眼が腫れ上つて來たといふのもある、三十三年にトラホームの問題が矢釜しくなつた時、某小學校でトラホームの檢査をしたが、兩眼瞼を飜轉するのに一回した丈では分らぬ時があ

る、さういふ時には硝子棒を用ゐて二重飜轉をする、此れはトラホームの檢査としては丁寧な方法であるが、此校醫は一本々々別の硝子棒を用ゐずして同じもので飜轉した爲め急に十二三人の膿漏性血膜炎が出來、校醫も校長も免職になつた事があるが、一人の患者から醫師が移植する樣な事もある。

○梅毒と眼科との關係

梅毒も(一)先天性梅毒と(二)後天性梅毒とに分れる。

先天性梅毒は生れた時既に光彩炎をやつて失明してゐるのもある。本病は一體に眼球が小さいとか、角膜が小さいとか色々の畸形が多い、始めの中は異常はないが十二三になつて起るのもある。其形は種々であるが角膜實質炎が一番多い。後天性梅毒は如何かといふと何處でも犯される、中では光彩炎が一番多く、茲を犯さるれば大抵梅毒と見ていゝ位であるそれから葡萄膜に疾患を起す事が多い、或人が三六二二人梅毒性疾患を調べたのに、一五五六人は光彩炎で、視神經が八八七人、眼筋五六三人、網膜二六三人、角膜一五〇人、涙囊四九人、眼瞼及血膜一六人、眼顆八人、鞏膜七人、其他一二三人であつた。

梅毒性眼疾は全身病の影響であるから兩眼を犯し、眼だけでなく全身に危險ある事を證する。眼科診斷學では兩眼を犯されてをれば全身病と思へといふ位である尤も時としては扁眼の場合がある、梅毒によつて失明する人は何人かといふと一四乃至一五%で、統計を取つた人によつて色々違ふが大體は察することが出來る、梅毒性の眼疾を有つてゐる人の死亡する年齢を調べて見ると、四二八人中二〇歳から三〇迄の間が一二九人、三〇歳から四〇迄の間が一五〇人であつて、二十歳から四十歳迄が多數であつた。次に梅毒性眼疾者が何れ程あるかといふと、アレキサンドルといふ人の調べには二一、六%である。色々說もあるが我々が毎日患者に接して漠然と頭にあるのは五〇乃至六〇%はトラホームで——地方によつて九〇%位の處もある——梅毒は其殘りの半分即ち二〇%位であると自然に考へてゐるから、アレキサンドルの統計と略合する、斯ういふ統計は勞力程利益はない。

梅毒性の眼疾に對しては、二十八九年頃は沃度加里に水溶酸水銀に定つて居つた。大學の眼科外來には〇、五%の沃度加里や水溶酸水銀がちやんと出來て居つた。其時分には眼科患者と云へば殆んど梅毒だと思つたものである。光彩炎などは勿論梅毒と定め、驅黴療法を行ひ、水銀軟膏や沃度加里を用ひたのであるが、ワッセルマンの反應などが起つてから大分違つて來た。尤もワッセルマンの反應が表はれぬかとてすぐに梅毒でないとは云はれぬ。

梅毒性の蛋白溶性網膜炎などに罹ると、二三年の內に死ぬ位恐しいものである。痲病は主として膿漏性血膜炎のみであるが、梅毒は何處でも犯す、水晶體にも續發性の白內症を起す、硝子體融解症すべて關係してゐる。トラホームは眼科醫の大部分を衣食せしめて居るが、續いて花柳病は眼科と大關係を有し、多數の失明者を出し、一身一國の幸福を阻害してゐる事が何れ程であるか分らぬ。(國家醫學會講演在文責記者)

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

花柳病と精神異常

巣鴨病院副院長
醫學博士　三宅鑛一

△後先天的の精神異常

梅毒と精神異常に就ては昔から注意されてをつて、確に梅毒から起るか、或は偶然であるか、六ケ敷い懸案で、今日の醫學に於ては、梅毒によつて精神異常を來すのに後天性と、先天性の二種がある。今後天性の方面を見ると

(一)官能的の不能　神經衰弱、頭痛、不快、思想の纏らぬ、怒り易い、不滿といふ樣な狀態を呈する、けれどもそれ等が果して梅毒に基く者であるか、精神的のものか、實質的のものかは分らない、唯精神的に起る者でない事は確かである。

(二)實質的の變化　精神が混濛となり、意識の混濁、乳頭突起、腦の壓迫作用、といふ樣な狀態が起る、

(三)痲痺狂　といふ樣な病氣に陷る、記憶力が惡くなる、悲觀をする、自殺をする、運動の障害、痙攣、卒中などを起し進行性のもので、稀に錯亂狀態に陷る。

(四)膀胱の騷がしい狀態　之は一時的のもので、正確に梅毒がどうか分らぬが、マルクスの驅黴療法で治る。

(五)普通の躁狀躁狂　マニーといふ普通の病氣と同じで、觀念の聯合が飛び〳〵で、誇大妄想、追跡妄想といふ症狀を呈し痲痺狂と外見上同樣の現象を示す、殊に瞳孔の變化、眼球運動の障害、痙攣發作をする。

(六)コルサック氏精神病　記憶力の消耗、現在自分の立つて居る時と場所が分らず、觀念の聯合が鈍く、間違つて追想する。眼球瞳孔に障害がある。

(七)卒中　を起す事が割合に多い、突然卒倒する、そして快復後記憶力が惡く、怒り易い、判斷の鈍い、治つて又起る、或は半身不隨となり、痙攣を起し漸次進行する。非常に他人の意志によつて左右され易くなる、煩悶狀ワッセルマンの反應が少い、白血球を增す事も少い、表情運動の變化を起し、僅な事で泣き、笑ふ、泣く時には笑ふ樣な顏貌を呈する。

(八)癲癇　これは通常の場合の總稱であるが、梅毒性癲癇の特長は、舌をよく燒けどをすると、無意識に突然發作的に起り、一定の時には濃厚で或時は薄い、氣質の變化を生じ、怒り易く殊によると痙攣發作が頻々として起る。

(九)意識が明瞭であり乍ら　嫉妬性の妄想や、追跡される幻覺、アルコール性の茫漠病、誇大妄想、眼球運動の變化視神經の萎縮を來し、極始めの中は神經衰弱の如く、あまり人の注意を惹かないが、癲癇性の腦膜炎の徵候から、痲痺狂類似の錯亂狀態となる、血管附近に疾病ある時は壓迫症狀として癲癇を見る。

△先天的の精神異常

EAST ASIAN LIBRARY

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

先天性の梅毒、即ち遺傳梅毒と精神異常の關係はまだ充分でないが、大體に於て左の症狀を呈する。

(一)重症の白痴　生れてすぐ、或は一週間位から一年前後に發症するのもある、痲痺の狀態は精神の發育が止まる。

(二)白痴としては輕い痴愚　始め氣のつかぬ時は普通の子供の樣に思ふが、步行が遲い、話が遲い、大きくなるに從つて普通の人間にならぬ。散漫たる注意で、茫然として氣力がない。眼球運動の狀態が異り、氣六ケ敷、怒り易く亂暴する。

(三)猶一層輕い愚者　十二三歲迄は平凡で、時には其時期から怒り易く、人の云ふ事を聞かぬ。我儘で、亂暴で、人にがみつき、着物を破る。そして病勢は進行する。これはワッセルマンの反應が表はれる事が少いけれども、重症には表はれるから、矢張遺傳梅毒か否かを知るには此方法を用ゐる。

(四)智慧の方が普通であつても道德が劣る　人を虐待する言ふ事をきかぬ、長上を輕蔑する、其所等を徘徊する、出步く、竊盜をする、子供の時には感化院で、大きくなると累犯者といふ有樣で、フールニエなどがいふてゐる、眼球運動の狀とか瞳孔反應が鈍いとか、腦背髓に白血球が增してゐるとか、蛋白質が少いとか、不良少年はこれが多い。

(五)晚發性遺傳梅毒　八九歲から十二三歲迄は左迄のことはなく、ずうつと段々智力が劣る、言語が澁滯する、解剖して見ると神經細胞が萎縮してゐる。

(六)子供の癲癇　或は線が劣る、癲癇殊に血管の異常は確に梅毒から來てゐる事を證明してゐる。

(七)子供の幻覺妄想

(八)老年性の痲痺狂

(九)幼年性の痲痺狂　皆ワッセルマンの反應で確める。

△白痴は大概梅毒から

學者の統計によれば、白痴の十分の一は梅毒性で、大凡さうだらうと思ふのが五六%であるといふ。勿論人によつて色々數字が異つてゐるが大體に於て誤はない。

次は變形梅毒　で背髓病、痲痺狂にも陷るか、神經過敏位で一時的に錯亂狀態に來る事があり、短時間來る事もある、二三週間幻覺と妄想があるのもある、永い間妄想を示す事もある。漫性梅毒の固有のものか、痲痺狂が加つたものか分らぬクレヘンといふオーソリチーは外見が違ふ、ぼんやりしてゐる點から別な病氣といふ、併し解剖學の結果は量の違ひで質の變化はない、變形梅毒は發病が十年前であるのみならず自分で罹つた事のないといふ人に一番多い、梅毒に罹つたといふ人だつたら輕いと安心が出來るが、罹らぬといふ時は却つて變形梅毒になり易い。

梅毒に罹ると本人が前述の樣な精神狀態に異狀を起すと共に、子孫に及ぼす影響が實に著しい、第一子供が生れぬ、早く流產する、初生で死ぬ、生殘つても片輪が多い、健全でも神經が過敏とか遲鈍たるを免れない、其例としてショーテンは一一一人の痲痺狂患者の子供を調べ、三六人は神經性の異常があつた。其子供の父が痲痺狂になる十年ばかり前に生れたものは割合に變化が少く、一三、六%で發病後に生れたものは四八、五%であつた。之れによつて見れば痲痺狂になる素質を十年前から持つてゐたと考へられるやうである。

(國家醫學會講演在文責記者)

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

雜誌の雜誌

（社會）

◉婦人問題の研究

法學博士　浮田和民

佛國大革命は封建時代の遺風を打破して貴族の特權を廢し、平民の自由を宣言し、法律上男子は凡て平等と看做さるゝ樣になつた。日本でも同樣、明治維新以來穢多乞食をも廢して平民となし所謂四民平等の理想實現さるゝ樣になつた。社會上貴賤の別を廢するは現代文明の大勢なるに、獨り男子と女子との間にのみ貴賤の制を存せんとするは固より不條理なるのみならず最早や時勢の許さゞる所である。

婦人問題の根本の要求は二個の――眞實は一個の大眞理に歸着する即ち

▲婦女子の人格を認識　せよといふことである。西洋でも中世の頃は「婦人に靈魂ありや」といふ問題が神學者の難問題であつた。東洋では女子は特に罪業深く成佛するには變じて男子とならざる可からずといふ説が行はれた。是等は何れも婦人の人格を無視した説である。夫れ男女の性は別あつて平等ではないが互に相補充して全き人たるを得るのである。男子の方のみが目的で女子は方便のみといふことは出來ぬ。男女共に獨立の價値ある人格を有するものである。男女は生理上、心理上又た社會上分業協力を爲す可きものであるが性分能力は兩つながら異なつて居る。男女平等といふは事實に反するけれども男女の天性本分に毛頭優劣貴賤の別はない。故に論理上男女の人格は平等と看做さなければならぬ。今日の時勢及び覺醒せる婦人の要求は婦人の人格を認めよといふことである。此の要求は

▲正當の要求　であるから此の要求に反する法律や習慣は漸次之を改良せんければならぬ。蓄妾の弊風や紳士の待合遊廓出入は、將來之を社會道德上より其跡を斷たしむる樣になす可き事である。

文學博士　建部遯吾

眞面目に社會學上の題目となるべきは、

▲婦人の職業問題　である。現下窘窮せる生活狀態に於ては、脛一本腕一本の男子には、自らの生計を保つ事が精一杯である。妻を養ふ事は不可能なる場合が多い。故に生涯を獨身で終るもの、然らざるも婚姻の時期が甚だしく遅れるものが多くなる。妻となるべきもの、需用も、單に家政を整理し得る能力の外に別に獨立して自身を養ひ得べき女を要求することゝなつて來た。其結果、女子にも獨立し得る丈けの職業の必要も生じて來る。但し獨立せる女子を歡迎すべきやは別問題であるが、兎に角此意味に於ける婦人問題は嚴肅に社會問題として一顧の價値がある。吾輩は女子の生理的心理的特性、並に社會の要求よりして、女子の天職は徹頭徹尾家庭にありと確信するを以て、女子が獨立したる生活は社會の病的現象で、社會病理學の取扱に屬すべきだと斷言して憚らぬ。婦人問題の根底をなすものは人口問題である。元來

▲女子の天職は家庭　にある。女子の家庭に於けるや至上至高なる皇運と國護とを翼賛するに堪ふべき、第二の國民を教養淘冶するにある。これ實に何物にも勝る偉大なる天職ではあるまいか。日本の女子は何故に此名譽ある榮光ある天職を捨てゝ、男子と職業を爭はんとするのであるか、人民の參政權は、自らの生命財産を自ら保護するの權利である。而して近來の文明國に於ては、

▲婦女子も皆生命財産　の權利を認められて居るから、その生命財産の權利を保護して、完全に行使する爲めには、どうしても參政權を得なければならぬことになるので、又之を與へるのが正當の道であると信ずるのである。英國邊りでは婦女子の知識が男子と略同等の程度に進んで居るから、參政權を要求するも敢て怪しむに足らぬのである。

男女の天賦の能力は如何と云ふに、今日迄は一般に

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

女子は男子に比し劣等であると言はれて居つた。けれども、これは多年婦女子を壓抑して、その天賦の能力を發揮せしむる機會を與へなかつた爲めで若しその頭腦に適當なる訓練を與へ、技能を磨き啓發してやつたならば、男子を凌駕するに至らぬとしても、尠くも男子と同等に、若しくは之と雁行するに足る丈に、發達することは疑を容れざる處である。現在英京倫敦の州會には、數名の婦人が議員に選ばれて居るが、その成績は頗る良好で、教育衛生に關しては、

▲男子より優良なる能力を發揮して居るさうだ。其他フインランドの議會にも婦人の議員があり、南洋諸島の中には、立法部のみならず、行政部にも婦人の參與して居る處があるが、何れもその成績は甚だ良いと聞いて居る。如何なることも利益ある處には弊害の伴ふが當然で、多少の弊害があるからとて、大部分の利益を沒却する譯には行かぬのである。

理學博士　石川千代松

▲既に男女が分れ　婦人が子供を産み自分の乳を以て之れを養ふ以上は、此の一事のみでも婦人が男子と同じ仕事をなすべきものでない事が分る。人間の子供は生後二ケ月になると聯想力が發達して來るもので、此時から小學校へ行く時又其の後も久しい間母の膝下にある内は、諸種の教育は大部分母の力に依るものである。故に第一に母たるものは健全でなくてはならぬ、第二に普通の教育がなくてはならぬ、社會が複雜になつて男子の職業が増加して來れば來る程妻女は子供の養育に盡されねばならない、又夫が戸外にあつて盡す用務が増して來るのと正比例に妻女の仕事は多くなるものである。之れは全く社會が複雜となる結果として來る所の分業であつて、此の分業が盛んになればなる程、社會は發達するのである。夫を援け子供を養育するのは妻たるものゝ義務であるのと同時に又夫たるべきものゝ仕事が澤山ある。良妻賢母とは夫が妻女に俟つ所のものであるが、之れと同時に妻は又夫たるものが良くて又賢こい事を要求する譯である、夫妻の生活は此の樣に共棲であるから生活上の快樂も辛苦も倶にしなければならない。

▲男子の眞似なする所謂新しき婦人なる者も、美服を着、化粧のみに時日を費し、虛榮を好む婦人も人種又は國家の競爭には有害無益の長物である。

内田魯庵

今の日本の女は、自分の親や良人たる男が公然大手を振つて待合に出入りしたり、妾狂ひをしたりするを、男の當然の特權と默許してゐる。中には不行跡をするほどの男でなければ世の中に活動する才幹なきものゝ如く信じ、剩つさへ我が家に醜業婦の出入するを誇るものさへある。自分の遊蕩を特權としながら偏頗な制裁を女に強ゆる男の暴君的態度は左も右くも、女が此不公平な裁判を合理として、甘んじて屈從して少しも怪まないのは

▲屈辱の病膏肓に入つたもので同時に經濟上の大損失である。議會初まつて以來每年缺かさず矢島楫子氏初め二三婦人の主唱の下に何萬人の連署で姦淫に關する刑法改正を請願するが每年の議會の例となつてゐるが、未だ曾て一度もマジメに討議された事が無い。常に握殺され或は默殺されてゐる。然るに請願者たる婦人は姦淫に關する現時の制裁の偏頗なるを婦人の侮辱と稱するに係らず、連年同じ請願を繰返す外にはどれだけの努力をしてゐるか。多き連署者の婦人の中には愈々刑法が改正されたら必ず刑辟に觸るべき親や良人を持つものもあるだらう。否、男の大部分は姦淫の罪人であるかも知れない。然るに自分の親や良人が不品行をするを如何ともする事が出來ない、英國のサフレジエツトが極端な運動は同情を喪ふといふ非難があるが、女が男に對して同一の權利を要求するは一種の宣戰である故、唯筆舌を鬪はしたゞけでは足りない場合はイクラもある。且權利は進んで要求すべきもので惠與せらるゝを待つべきものでは無い。元來柔婉なる婦人をして此の如き狂暴なる手段を取るに到らしめたのは男の罪である。

▲姦淫に關する刑法の改正　は女として當然の要求である。英國のサフレジエツトの要求よりも一層實際的の一層正當な問題である。本來權利は主張し要求すべきもので、同情に縋つて憐みを乞ふべきものでは無い。

法學博士　福田德三

▲經濟上の婦人問題　と云へば主として生產の方面に於ける問題に限られたものゝ如くにして、婦人問題の叫聲の愈々喧しきは畢竟生產者としての婦人職業を求る者としての婦人の數が益々增加する趨勢と密接なる關係があるもので、生產に於て、職業に於て婦

人が漸次に男子の獨占特權を打破し之と競爭するに就て對等の取扱若くはより良き取扱を得んと要求するとが、即ち經濟上に於ける婦人問題の内容を成すものである。されば婦人問題の提出者は婦人の經濟的獨立と云ふことに甚だ重きを置くが如く見える。成程之は一應尤の次第であつて現今の經濟界に於て婦人の「パンの獲得者」としての需要の増加し來る事實は到底之を否定することを得ぬのである。然し乍ら生産者としての婦人の數如何に増加し來りたりとて之を生産に直接干與せざる婦人の數に比すれば遙かに小數である。

▲此小數者のみが婦人問題 の全部を成すものとは到底言ふ可からざるのである。婦人問題は生産者たる婦人と、消費者たる婦人との問題である。(以上太陽)

○宗教

◉教育と宗教の吻合

護教

今回の官制改革中最も重大なるものは、陸海軍制の改革と、宗教局が内務省より文部省に移轉したることの二なりとす。從來政府が宗教を見るは宛も骨董を見るに異らず。寧ろ之を厄介視し、其最も密接なる關係を有する教育の域内より全く之を排斥したり。此如く

▲政府が宗教を無視し 國民に向て暗々裏に無宗教主義を奬勵したりし結果如何といふに、一言を以てすれば、道德の頽廢、風俗の壞亂に外ならず。而して由來男女間の貞操に關する道念低き我國民の此點に關する墮落に至りては最も甚しく、新聞紙の如き得々として之に關する記事を掲げて恥ぢず。讀者も亦卑猥の文學を喜ぶの風あり。是れ實に近年我國民一般の風潮にして、要するに政府が宗教を抑壓したりし結果にして、政府は即ち自ら蒔きたる種を苅りたるものといふべし。

然るに近時政府は漸く其取り來れる政策の誤りたるに心付き、宗教的

▲信念が國民の思想 及び生活に及ぼす力の甚だ大なるものあることを悟り俄かに驚きて之が利用策を講ぜんとするに至れり。昨年の三教會同は即ち斯くして出で來りしものなり。去れば宗教局が内務省より文部省に移りたるは一些事に過ぎざるが如くなれども如上の歴史よりすれば、是れ正しく進歩にして、奥田文相が教育の方針又は寺院財産上の事項に至ては指導改善せざるべからずと言へるを見れば、是れ政府が宗教と教育との密接なる關係を認めたるものといふべし。

◉新舊思想の衝突と宗教家

高島平三郎

思想は新舊と云ふが如き時間を以て評價せらるべきものにあらずして、價値の問題である。時間的に云へば新思想であつても價値の上からは同時に舊思想であることもある。隨つて新舊の文字に拘泥して思想問題を論ずるのは無意義の事と云はねばならぬ。唯だ玆に注意すべきことは其

▲思想を充たす人格 である。如何に價値ある思想と雖も人格を待たねば之を如何ともすることは出來ない。卓越せる人格あり、其人格が自己の確信となれる、潑溂として之を切れば鮮血の迸るが如き思想を語る時、初めて社會を動かし、人類を指導することが出來るのである。此意味より云へば思想は必ずしも新しきを要せぬ。今基督や釋迦に就て之を見るも彼等は決して前人未發の說を唱へたのではない。基督の福音にせよ、釋迦の哲學にせよ、皆之れ先人の既に唱へた處のもので、時の上からは云はゞ舊き思想である。然るに何故に彼等が一世を風靡し、千載の下、萬人をして景仰せしむるかと曰ふに、之れ即ち其思想を我裏に活かし、一々實生活に觸れて鮮血淋漓たるの感あらしめ而かも其人格に於て前人の企て及ばざる卓越した處が有たからである。時間的に新舊を標準とすれば自由思想家は、正統派の人よりも新しいから、社會人心に影響する所、正統派の人よりも甚しい筈であるが必しさうでなく、却つて正統派の人にさう云ふ風な人がある。之れ即ち彼等が信ずる所を憚らず宣べ傳ふるのみならず、其實行に於ても勝れてをる所があるからである。此點に於て現代の宗教が青年の心に徹底せず、

▲虛空を打つ が如きものありとすれば、其原因の大部分は宗教家其人にあるので、つまり、現實の生活に觸れない空理空論を唯だ受け賣り的に說法するに過ぎずして毫も自我の滿足せる堅固な信念の吐露でないからである。(基督教世界)

○學海

◉アジアに於ける氣候と人生

理學博士 山崎直方

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

アジア大陸中で、今日、人口密度の最も大なる地方は、何れかと云へば、即ちアジアの東部に於ける支那本部と、日本列島と、之より更に南へかけて印度地方とである。此等の大部分に於ける人口密度は、一平方キローメートルにつきて百人以上で、

▲世界中密度の最も大なる部分に數へられて居る。一方に於て氣象圖を對照して見れば、此等の人口密度の大なる地方は、同時に、又世界中雨量の最も多い地方に屬するのである。即ち此等の地方は所謂季節風帶と稱して、年中季節によりて一定の風の吹く所である、冬にはアジア大陸の內地に高氣壓が生じて氣流は海の方へ吹くが夏時になると反對に、アジア大陸の內部に低氣壓が起る爲め、海の方から內地に向つて、風が吹くのである。そして此の風は何れも熱帶又は暖帶の方から吹くので、非常に蒸發作用の著しい所より來るのである。故に水分に富んで居る。此の水分が、前に述べた如く、大陸中の山脈に觸れて風と成るのであつて、其の量は實は夥しい。殊に印度にては、ベンガル灣、アラビヤ海などから吹き來るので、夏の季節風はその携へ來りし水分を、遺憾なく其の途に横はる所の山脈の附近に雨として降らすのである。即ちヒマラヤ山脈の麓からバルマ地方にかけては、實に

▲降雨の潤澤なること世界無比と稱せられて居るのである。印度人は實に此の水に養はれて、恒河、印度河の平野方面に、一億七千萬に餘る多數の人口を繁殖せしめて居る。印度の、人口の十分の三は、印度の平均雨量以上を有して居る平原の、僅か十分の一に充たぬ小面積の中に、集中して居る有様である。隨分、印度の、此等の地方、パンジャブ地方の如きは盛夏の頃には攝氏五十二度、即ち華氏の百二十六度と云ふやうな、實に火の如き炎熱の所であるにも係はらず、其の生活の容易なるが爲めに、斯く多數の者が集中し居るのである。(東亞の光)

(○東　西)

◉一夫一婦を嚴守する蠻人

金木九萬

蠻人の良人が其妻に對する關係は諭に嚴肅な所がある。ベンガル灣の東部に位してゐるアンダス諸島の土人や、錫蘭島のアールヤ族やニューギニア邊の土人等は頗る未開のものであるが、彼等は一夫一婦を嚴守してゐる。男は必ず一婦を娶るべきものと云ふ事に行はれてゐる。レッドインデアン族のイロイクス人の男は決して

▲一婦しか娶らない　而して面白い事は、現今英國や北米合衆國や乃至支那に於ても婦人參政權獲得の火の手が擧つてゐるが、此のイロイクス人は婦人にチャンと政權を與へてゐる。彼等蠻人の主婦は會議の席に出張して其代表權を振ふことが出來るのである又宣戰講和の大權をも振つてゐるのである。故に家庭に於ける權威の強大な事は非常なもので、良人たるものは妻の頤使のまゝに如何なる命令にも背くことは相成らぬ規定で、妻が商賣に外出してゐる間良人は必ず家事をセッセと整理しておかればならぬのである。巴馬運河で名高い中米のニクワラガ共和國の大人の妻も強大な權威を振ふと云ふ事である。(早稻田講演)

◉地下の寶庫

文學博士　高楠順次郎

▲希臘も印度も　その地中には地震或は水火の爲に深く埋められた堂塔、建築、彫刻、作品など各時代の藝術品は無數に存在して居る。現今では希臘印度の何れの地を掘るも古代の遺物の出ない所はないと云つても宜しいのである。古蹟發掘の事業も今は餘程進步して遺蹟の鑑定、遺品の攷究、拾集、登錄、配置の方法も從來に比しては非常の發達で、今では學理的、組織的の大事業となつて居る。この方法に由つて掘出すものは千古の至寶である。私は戲に印度人、希臘人に今地中に在つて古代の狀態をその儘に示せる地下の印度、希臘を全く掘出して、その代りに現在の印度、希臘を地下に埋めてしまつたなれば一段の興味があるであらうと云つて、度々彼の國人から非常に怒られたことがありました。印度に遊び、希臘に入るものは先づ以て胸中に此のやうな感想が起るのは事實であつて、また止むを得ないことであると思ひます。(宗教界)

(○談　叢)

◉大阪の夏の趣味

薄田泣菫

大阪の夏の趣味といふと、私には何よりも先きに

▲祭の事が思ひ出

される。大阪のまつりは大抵夏祭で、七月の八日九日の生魂祭から始まつて、難波祭、八幡祭、御靈祭、高津祭、稻荷祭、座摩祭、天神祭を經て七月三十一日と八月朔日の住吉祭で一先づ濟んでしまふ。その間二十三、二十四、二十五日の三日間は瀨戸物町で陶器で作り物をし、住吉祭には堺の魚市、靭、東横堀で、干鰯で作り物をするといつた風に、それ〳〵違つた趣向もあるが、一體祭といへば氏子の家々では前の日から灰汁洗ひまでして、家中殘らず拭き淸めた上、表へは定紋の入つた幕を引きまはし、店の間へは金屛風なり、銀屛風なりを立廻し、美しい毛氈を敷いて、番頭が碁を圍んだり、丁稚が將棊をさしたりして、樂しい靜かな日を送る。唯京都の祇園祭などとは違つて此都では屛風覗きといつたやうな事をする人が無いらしい。

大阪は人も知つてゐる通り水の都で、大川筋や、横堀が都の血管になつてゐるのだから、舟に乘つて川筋から川筋へ滑らしてゆくと、これまでついぞ知らなかつた興味を見つける事が少くない。わけて

▲面白いのは川涼

みだ。そこらの横堀へおりて待ち合せた船に乘ると、船は兩岸に立並らんだ町家の裏側、釣忍や、植木棚や、岐阜提灯や、物干竿の下を通りながら欄干にもたれた肌ぬぎの大年增や、だらしなく胸元を寬げた若い娘に見送られて大川筋へ出る町では暖簾一つ搖がない蒸暑い日でも、堂島川とか土佐堀川とかへ出ると流石に風が吹いてゐる。

⦿京都の夏の趣味

高安月郊

京都の夏は先東山

▲花と霞て塔まて醉うた

に現れる。春の色は踊と散つて、人より厚い濃い綠の衣更、土佐の繪の具をつけたばかりの繪卷になると、悟り顔の叡山まで髮を延ばして若草山より若がへる。殊に綠の中から平安朝の夢を練出す御蔭祭、葵祭、いつも綠の糺の森へ白が來る、黑が來る、赤が來る、紫が來る、淺黄が來る、黄が來る、萌黄が來る、褐色が來る、馬が來る、檢非違使が來る、童が來る、山城使が來る、雜色が來る、舍人か來る、花傘が來る、白丁が來る、衞士が來る、牛が來る、花をめぐらした御所車が來る、樂人が來る、美人が來る、勅使が來る、朱の鳥居で止ると、笙、篳篥、和琴の合奏、それにつれて樓門の中へ收まると、木蔭、草原に殘る舍人、童、繪卷物の斷片か、見物の中にも古代紫がある、朱の裏がひろがへる、夢も現と溶け合うて更に加茂堤の木の間、向の山を背景にして、北へ行く人と自然の調和、誠に

▲平安の象徵である

藤の森の祭には鎧武者が多く出る、梅の宮の杜若、松の尾、嵐山の靑葉、雨の夕暮に河鹿を聞くと三舟の遊に洗うた笛が淵に沈んで時に其餘韻を洩らさうとしては又咽ぶ樣子。歌の中山、淸閑寺の木下闇に杜鵑を聞き、曼珠院に叡山を枕屛風にして水鷄聞かうと思ひながら今に果さぬ。梅雨は草と磧と淺瀨と組合はせた鴨川一面濁水の急流として、平家の運命を小原の奧に泣く

二四

▲上臈の涙も流す

源家の運命を鞍馬の奧から起して其身は北の海へ漂うた御曹司の恨も流す、叡山を下りては上り、果は向へ落ちた中黑の旗の影も流す室町のうるさゝを遁れても苦い銀閣の茶の餘りも流す群雄の中を駈抜けて先上つても、本能寺の烟から法華寺の土になつた吉法師の怒も流す、三日天下は小栗栖の泥になつた重兵衛の哀も流す、聚樂、桃山の榮華は浪花の蘆と散つた千成瓢簞の亂も流す、彼所此處に染込んでゐる千年の執着を一時に流して流し切れず、更に其根元を天に問ふか、雷音でわめくのを、水樓の簾の中で宇治の茶すゝるのも長い夢を醒す。（中央公論）

（○修　養）

⦿勤務界に投ずる婦人の覺悟

黑岩周六

世間一般の氣風として女が男と混交する如き勤務に從事すれば

▲最初から既に誤解

の眼を以て其女を視るのです。其女の一擧一動が誤解の眼の爲めに曲解せられ、其女が一たび笑へば、人を招く謎をでも含んで居るが如く思ひ、笑ひを受けた男は窃かに喜び、傍觀した男は或は競爭の心を起し、或は嫉妬の情を生じます又女が男を視るにも多分此樣な事情が有りませう。是れが爲に間接直接に、見もし聞もする女からも嫉妬や競爭や怨みなぞが、自然〳〵に燃え上つて益々空氣の

毒を濃厚に、果は常人を蹶かせると云ふまでの事情を生ずるので有りませう。獨身婦人は不幸で有ると申しますが、獨身主義の覺悟を定めずして勤務界に投ずるものは猶更らの不幸で有ります。何うしても勤務界に入るとならば絶對貞操觀無しには目下の所成功に達することが益々難い。（婦人評論）

◉顚倒の妙作用

文學博士　幸田露伴

順當の事に反したこと、自然の緒次に違つたこと大勢の序列に戻つたこと、さういふ事の遂行に伴なつて一種の妙用を生ずることもあるものである。たとへば雇主にして自から謙抑して、被傭人よりも低下の地位に在るもの丶如くに自己を處理する時には、そこに**▲不可言不可說の面白味**を生ずるものである。顚倒の妙作用は、被傭人を鼓舞振作し、策勵鞭撻するにも當ることで、其の結果は被傭人に對して佳良の刺激を與へ、事業の進捗を好況ならしむるの功を生ずるのである、師傅が弟子よりも夙起晏眠して、そして黽勉從學する時にはおのづからにして子弟は其の爲に佳良なる影響を受けるのである。將軍が兵卒よりも勞苦困憊してそして國家に盡すの實を示す時は、一軍おのづからにして精銳嚴固のものとなるのである。古の彌伽大士は圓滿具足の智者であり達者であつた。しかも道を求むる者に對しては、自己が獅子の高座を下つて、そして求道者の前に於て五體を地に投げて之を禮讚したのである。斯の如き場合に於て、其の求道者は一句一言の敎を受くるに先だつて早く旣に彌伽大士の爲に不可言不可說の敎を被るに疑無い。希臘の哲人が人を敎ふるに、我が言を發するより人の言を聽く方が多かつたといふのも、また此の顚倒の作用の妙を示したことである。今日の僧侶、牧師、敎育者、官吏、會社重役等を觀るに、各自の**▲位地や權威や職責や**を嚴重に保持せむとするの上から、立派な態度を取つて、儼然として人に臨むのは人間相互の作用の妙といふものが全缺したのを見るやうで面白く無い感を起す。（實業の世界）

（○家　庭）

◉疲れた子供を休養させよ

大阪夕陽丘高等女學校長　伊賀駒吉郎

ある家の子供が尋常一年に入學しましたが、どうもの覺えが惡い、他の子供は十覺える間に、その子は三つか四つしか覺えません。それからだんだん調べてみると、あまり遠い道を通はせるために、**▲身體も心も共に疲れ**て、それでもの覺えが惡いのだと解りました。それから學校の往復に電車に乘せて通はせたところが、その後は非常に成績がよくなつたさうてす。

かういふ譯ですから、子供がひどく疲れた時は、十分休養させて、滋養物を食べさせ、できるだけ子供に心配させないやうにして、細かいところにまで注意しなければなりません。

獨逸のワヒアルトといふ醫者は、人間が疲れるのは人間の體内に疲勞素といふ毒ができるのだから、この毒を打消すものを發見しなければならぬといつて頻に研究してなられるさうです。

とにかく子供の過勞といふことについては、家庭において最も注意しなければなりません。（婦人世界）

◉散步して飲食店に入るな

東洋幼稚園長　岸邊福雄

子供を連れて町を步く時には、商店に注意し、何か新しい品物があれば子供に見せて、それについて委しく說明して聞かせるやうにするがようございます。ところが東京の人の癖で、**▲散步をすれば必ず料理**屋へ入つて何か食べることになつてをります。私は、それはよくないと思ひます、散步に出る度にものを食べさせると、子供に自然に奢侈とか虛榮とかいふ傾きを生ずるやうになります。

それでは折角散步に出ても、散步の本當の目的を達することができなくなります。だから散步の面白味を子供に知らせるために、飲食は全くさせないやうにしたらよからうと思ひます。

そして散步から得る適宜の運動から身體を壯健にし見聞によつて智德を進めるといふ方針でなくてはなりませぬ。

その代り、家に留守番をしてゐる母親は、散步に出た日には、特別に子供の口に合ふやうな御馳走を拵へて、歸りを待つやうにしなければなりません。

（婦人世界）

◎子供の天分を見出せ

羽仁もと子

私共の子供の心の襞から、苦心してその中にあるよい芽生を見つけ出したいと思ひます。缺點は雜草と同じに雜作もなく目につきますけれど、子供の本當の天分の、どういふ所にあるかを知ることは、一朝一夕のことではありません。私共は何よりも常に其子の中の

▲**伸ばすべき才能や**　感情を見出すために心を盡し、一つでも見出し得たものは、望みを以てそれを守りたてゝやることが母の勤であると思ひ、また樂しみであると感謝しなければなりません。（婦人の友）

◎夏の御辨當

夏になるとお辨當には餘程注意せねばならぬ。朝御飯を詰める時多くは炊きたての温味のあるのを其儘入れお菜を其上か横へいれる、斯樣な詰方をした辨當は晝頃になると多くは腐敗に傾いて居る、之を食る時大人ならば變だと感付くが、お腹の空いてゐる子供は、多少の匂ひがしてもかまはずに食る、すると其腐敗のため出來る一種の毒に冒されて腸胃の疾病を起すことがある。お辨當を詰る時には

▲**御飯を冷してから**　入れお菜も煮たての温いのでなく、といつて煮てから餘り時間の經つたのは惡いが腐敗し難い材料を選んで添へるがよい（時事新報）

◎蚤の驅除法

▲**蚤は疊の隙間**　や埃の中や戸棚の隅などに卵を産む、之が孵化して蛆の如きものとなると塵埃の中に發生する有機物を食べて成長し遂に自分の身邊に繭を作つて其中に潜み踊となり蛹となるのである。蚤の雌は雄より大きく、人間の身體や座敷などに發生するのみでなく犬猫鼠等の毛の中に附着してゐる、種類は甚だ多く家の中にゐるの丈でも八種位はある、犬猫などの蚤が人體に移つてもたゞ痒い丈であるが若しペスト菌を有つ鼠の蚤が人間を刺すと即時にペストに罹る危險がある。之を驅除するに消極的な方法では蚤取粉を撒布して蚤が痲醉した時殺すのであるが、根本的な方法としては室内の塵を綺麗に掃除し疊や床板を清掃し床の上に古新聞紙を布き並べ其上にナフタリンの如き蚤の厭ふ藥劑を撒撒く、かくすれば蚤の發生を絶對に防止し得る。なほ蚤を殺すに

▲**有効なのは强烈な日光**　である、盛夏の時分蚤の附いた布團類を日光に曝して置くとぢきに死んで了ふ、殊に熱い砂地の上だと炎天と地熱に打たれて即時に死んで了ふ、砂地でなくともブリキ板を炎天に曝して用ひても同じ効力がある。（時事新報）

◎蚊の驅除法

室内の蚊を驅除するには除蟲菊の粉末を燻すのが一番であるが、根本的に蚊の發生を防ぐには

▲**水溜のないやう**　がにする事肝要であるつまり孑孑は溜水、溝などの中に棲むものであるから、若し水が涸れてしまへば、水分不足の爲め自然に死滅し蚊の發生を見ない事になる。又孑孑の發生するやうな池溝などに魚類を飼へば、魚類が好んで孑孑を食ふから、これも自然有力な豫防法となる。又溜水などへ石油を注ぎ入れるのも一つの方法であつて、流元や、ごぶなどに之を應用するのは最もよい。（大正婦女社會）

（笑　話）

◎夏の川柳

井上劍化坊

▲蚊帳釣つた夜は珍らしく子が遊び

ありのまゝを云つたのだが、そこにいはれぬ家庭の温かさが見えて居る

▲よく寢れば寢るとてのぞく枕蚊帳

人の母の情を寫してホロリとさせる。

▲生醉は立つてゝ蚊屋へはいるなり

これまた亂發だ。

▲生醉は藝を仕舞ふと蚊がたかり

オクビや、舌甜めずりや、管卷きの變な仕廻つたので寢たのである。

▲蚊の食つたまでも怨みの數に入れ

俗諺「お前待ち〳〵蚊に食はれ七ツの鐘の鳴るまでも」これを借りてこの句の解とする。

▲蚊遣火の馳走有難涙なり

有難涙がうまいところへつかつてある

▲起きぬかと蚊帳の裾にて顔を撫で

大變な朝寢坊、蚊帳を外しても、まだ寢て居る

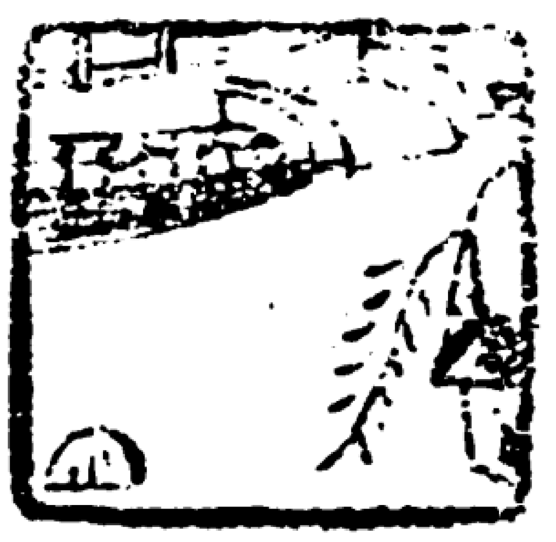
▲飛んで來る蚤を見て居る病上り

病體の懶い氣分が見える、飛んで來る蚤に「オツト來た」と指に唾きして待ち構へるといふ活氣は無い。

▲禪宗は坐禪が濟むと蚤を取り

これも前句に劣らぬ名句だ、一休の口から吐かれでもしたやうな警句だ。（現代）

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY



糟糠の妻は捨て度がる

文學博士　姉崎嘲風

○聾の妻を慰めん爲の觀光

此間佛蘭西の有名な戯曲作家のブリユー氏が來られた。氏はどういふ經歴の人であるかといふと、二十幾歳迄は石屋をやつてゐた人である、日本でも石擔ぎといへば可なり下等な方であらうが、西洋では殊に下賤な職業になつてゐる。

其石擔ぎが、千八百八十何年に「貪欲者」といふのを三十幾歳で公にして以來一躍して文壇を風靡し、佛蘭西一流の劇場で氏の著作が演ぜられ、非常な榮冠は君を待つて、遂に學士會院の一員と迄なつた。日本に於ても一平民に陛下が拜謁を仰付けられるといふ有樣で、氏の有つて居られるのは人爵ならぬ天爵である。

先達つて大學に來られた時、氏の講演せらるゝ室の前で、丁度石屋がこつ〳〵やつてゐるのが硝子越しに判然聞き取れる。私はふと氏の經歴を思ひ起して異樣の感に打たれ、直に書記に命じて止めさせた。其時氏は自分の得意な文章を讀んで聞かされた。それは宮島に關する風景であつた、なる程あゝいふ風に書いていはれると恍惚となる、此世ではない、蓬萊山のやうな感じがした。

ブリユー氏は細君を伴れて居られる。日本人で細君を伴れて旅行する人はあまりないが、西洋人として細君と共に世界を觀光するといふ事はさまでの興味もないやうである。實は茲に我々の感嘆に値するものがあるのである。氏の夫人といふのは石屋のこつ〳〵時代に結婚された石屋としての相應しい婦人であつた。所謂糟糠の妻、石粉の妻である、處が此婦人は耳を病つて今は生れもつかぬ聾である。であるから音樂の快樂を享受する事も出來ず、芝居の娯しみを持つ事も出來ない。唯喜ばせる道は眼よりする外はないのである。そこでブリユー氏は不幸な身の上を思ふて、どうかして妻を喜ばせたい、どうかして彼女を慰めてやりたいといふ處から、珍らしい東洋の風景奇習を見せたならばと思ひ立つて日本に觀光に來られたである。

私は茲に何とも云へない美しい氏の心事を讃嘆せざるを得ない。人間といふものは自分が出世するとか、或は自分の智識が發達して、糟糠の妻との釣合の懸隔が甚しくなつて來ると、嫌厭の情を生じて、之を虐待し、甚しきに至つては之を離別するといふ樣な事をしたがるものであるそれとこれとを比較して見て、私はブリユー氏の美しい心事を思ふと共に現代の人達の浮薄な不眞面な態度をつく〴〵情なく思ふ。

○正義の權威

ブリユー氏の經歴から私は運命の開拓といふ事を思ふた。誰しも自ら探つて開拓すべき道は無盡藏に有つてゐる。ブリユー氏が數十年後あれだけにならうとは誰しも考へ得ない、人は自ら自己の人格を完成するといふ事が最も大切である、ナポレオンが二十幾つで砲兵士官であつた時、どうして歐羅巴を震撼する樣な將來のある事を想像し得やう、やつて見るに從つて自分を發展せしめたのである。

ラヂウムを發見したマダム、キユーレー夫人の如きも、やつて見て始めてあゝいふ事になつたのである——此發見の元はジヤンダークであるが——。

一歩々々運命を開拓するといふ事の内には正義といふものが又含まれねばならぬ。國家にしてもさうである。強い者が弱い者を酷め、強者が王になる、それ丈ではいけない、茲に我國體の秀絶がある外の國では唯暴力を用ふるから、常に轉變するのである。唯暴力ではいけない、どうしても正理であるといふ口實が伴はなければならぬ。足利尊氏の如きも北朝を戴き、錦の御旗があつたからこそ、あれ丈の事をやつたのである。でなければ相國寺や忠義が何といふても國民の嚮背は必ず明かであつたらう、南朝の錦の御旗と、北朝の錦の御旗と時人の見分がつかなかつたのだ、尊氏が若し何とも思はぬなら錦の御旗を振り捨てゝ、畏れ多くも天皇を潛稱したであらう。斯ういふ處にも正義といふ者の權威が覗はれる。

露西亞の國家は暴力と稱せられてゐたが、近い内に擧げらるゝローマノフ家三百年の祭典の此系圖は實は疑問である。ローマ皇帝の系統といふ事になつてはゐるが、あれ丈の人民があれに服從してゐるのは東羅馬を繼承してゐる權威と、國教の力である。渺たる莫斯科國から今日の强盛を見たのは實に此力に外ならぬ。

如斯建國の上にも正義の理想の標榜がある、亞米利加の建國の理想は自由を尊んで各州各異つてゐる。マツサチユーセツツはピユーリタン、ペンシルヴアニアはクエーカーで國を建てる、之が亞米利加建國の精神で、デモクラツト黨が遵奉して來た處である、それをレパブリカンのルーズベルトが動かさうとしたが遂に及ばなかつた。

英國はマグナカルタに表れたカンタバリーの大司教の權利に其精神が覗はれる佛蘭西の元は自由平等博愛であつて、旗印の赤と白と青とがそれを表現してゐる。唯力でするといふ事は出來ないのである。であるから支那では共和政治にも儒教を見出さうとしてゐる。

○死滅が我々の最後ではない

正義の力といふものは肉體が滅びても命を永遠に生かす、楠公は死によつて、七度生れ變らんと祈つたが、百世に生きた。マーテルリンクの「智恵と運命」に「悲しみ動くものがある、山の上に登つて達觀すると其悲しみにも光がある。幸福がある。時を經てば過ぎて消えて了ふ」といふがある、幸福も悲みも偉大でなくてならぬ。希臘の名士テミストクレースがサラミスの大會戰に波斯の百萬の大軍を破つたのもそれである。我々は死滅といふ事が最後ではない。

罪惡に對しても唯之を憎んではいけない、四十七士が炭小屋の中から吉良義英を引出した時にはどんなに嬉しかつたらう、然るに流石は四十七士である。如何に憎つくき主君の仇にしても高家の吉良上野である。他から手を下してはならぬと、自分で處決せん事を迫つた、處がお爺さん却々やらない、仕方がないから首を打つたのである、彼等には憎いと共に涙があつた。今日の樣なブルータルな人間は一人々々毆らして呉れと云つたであらう。刑罰は返報かへしてあつた時代もあるが、それでは濱の眞砂の盡きる時はなく却つて他の者の道德性を害し殘忍な性を作る、今日の刑罰は懲らしめるでなく教化するでなくてはならぬ。（文責記者）

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

夫の心を心とせらるゝ後藤男爵夫人

婦人記者

麻布宮村町の御邸に後藤男爵夫人を御訪ねいたしました、いつ行つても氣持のいゝのはお取次の叮嚀な而かもあつさりした態度です。どうかすると名家の女中や書生さんの中には「何しに來たか」と云ふやうな顔をして見下す方もないではありません、又叮嚀と云へば馬鹿に叮嚀で、三太夫式の窮屈な形式をとつて居られる處もありますが、男爵邸御取次の書生さんは、只今申すやうな叮嚀であつさりした態度、うかゞはずとも其家風の床しさが忍ばれます。

○はつきりしたお言葉

階下の應接間に通されて、暫時待つてると、間もなくガラス戸の彼方に衣摺の音サラ／＼と奥様の姿が見えた。

「どうもお待たせ致しまして」

とはつきりしたお言葉の調子が凛とした威を傳へる。お目にかゝつて見ると思つたより若く、雜誌の口繪などで拜見したよりもモッと氣品のある色白の面長のお顔の艶々しさ、お召物の御着つきから言葉使ひ、すべての態度に、浮いたところなく、世俗に見るはで／＼しい個所もない、落着いて、引締つて、どこかに犯し難い威嚴がほの見えて居る、私は世の噂の僞ならぬをつく／＼感じました。と共に夫人は世の所謂貴夫人でなく、眞に模範とすべき賢夫人なる事を何だかうれしいと思ひました。

そして風紀問題や其他の事について色々と御伺ひいたしましたが、夫人は飽く迄謙讓な態度を以てこれを辭せられた。

『日本では昔からの習慣もあり又歐米の思想も這入つて來て居ますから大變に複雜して居まして、昔は善いとした事も今日はそれが不便になりましたり色々と變つて參りますし、殊に風紀の問題などゝ申しますと、なか／＼六ケしい事でございますから、種々な方面から研究をなさつた方でないと、あれはかうしたがいゝとか、是れはあゝしたが可いとか申すやうな事はほんとうに分からないものでございます。

別してこれからの問題は世界の問題でございますから、私など何にも知らないものが、兎や角口を出す可きところではございますまい、とぞんじまして、私は皆樣方の御意見を新聞や雜誌で拜見いたしますばかり、何も自分では申上げる事が出來ないのでございます。』

○自分を新らしくすること

だけども私は夫人の御言葉には實に味ふ可き意味が含まつて居るやうに思はれてなりません、なほも雜談の間に床しい夫人の御心掛をうかゞひ得ました。

『話すよりも聞く事を多くいたしましていつも自分を新らしくする事に務めて居ます』と忘られぬはこの御言葉。

『他樣の御家庭では奥樣がどんな御意見を御發表なさつても差支ない方もございませうが、――其家々により家風と云ふものが異つて居ますしね、私共のやうに

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

俗事にばかりたづさはつて居りますものは、他樣との御交際上の事もございますし、私が自分の一人の意見を發表いたすのもいかゞとぞんじます。

自分一人の時ならば、萬一迷惑がかゝるにして一人で背負ふだけで思つた事を申上げても差支がございませんが、家庭を有つて居ますと、それが直に主人に影響いたします、主人の顔にかゝりますのです。それにまた、自分がかう思ふからと申上げましても、それが新聞なり雜誌なりに出た時、若しも夫の意見と異つて居たらまことに困るのでございます。人の妻となりましては主人の心を心とせなくてはならないものと心得ますので』

○主人がそんな流儀でない

『それに主人がそんな流儀でないものでございますから、左樣でございます、妻があまり出しやばるのはよろしくないと申します。先づ家の事を充分にやつてそして餘暇があれば外の事に働けといつも申すのでございますが、家内の事も七八分より出來ず毎日〱其日の事に追はれて居る位でございまして、皆樣にこれと申して意見を申上げるまでにはまだならないのでございます。ですから、どなたが御出になつても、餘り想氣なくて失禮のやうですが、唯世間一通りの御話より外申上げる事も出來ませんし、成可く御目にかゝらないやうにいたして居ります。』

『又新聞や雜誌に出ますと、話をいたしました私と御書き下さる方と別人なんですから、どう致しましても少しは違つたところもございますし、でございませんでも、普通御話をいたして居ますのですと御問ねを受けて色々な事を申上るのでございますから角が立ちませんが、雜誌や新聞に御出し下さるのは、のべつに……堂々と獨でおしやべりしてるやうで大變に角が立つてまゐります。

先達も避暑についての意見をと仰しやつて或方がお見えになりましたが、只今申上げるやうな次第で、こんな平易な問題ですけれども、失禮をいたして御免を蒙りました。避暑などゝ云ふ事はありふれた事で、又これまでに色々と研究なさつた方々が立派に御意見を發表なさつて居ますのに私などが何もおこがましく、知りもしないのにお話いたす要もなからうかと存じます。』

○無言の裡

『これが自分の子供だとか甥だとか、目下のものになりますと、十年二十年或は五年でも早く生れ、それだけ長い生活をして來たものですから、止むを得ず、これは斯うしたがよろしからうとか、何とか意見も述べるのでございますが、何しろ六ケしい世の中の問題になりましては只々皆樣、御研究なさつた方々の御意見をうかゞひますだけでございます。』

これだけのお話をうかゞへば充分です、夫の心を以て心とせらるゝ床しき夫人！其家庭の麗しく世の摸範として仰がるゝのもなるほどゝ首肯かれました。

夫人は無言の裡に主婦たるものゝ行く可き道を指し示して居られるのではあるまいかと思ひました。「たしかに男爵夫人は豪い」これが私の心にきざまれた深き印象です。

會告

會費滯納の各位は、整理上の都合有之候間、此際至急御拂込相成度し、拂込の方法はなるべく振替によられたく（口座東京一九五三三番岔富政助宛）或は支部委員へ御拂込有りても宜敷候

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

募集歌

相當に記者の机上に集まつたけれども、遺憾ながら期待した程の作を見るを得なかつた。今左の二篇を得て本回の募集を完結する事とした。南海の女君の氏名御報知を乞ふ

(貳等)

廓清の歌

南海の女

(一)
東海中の君子國
聖帝上に在位せりと
世界に誇る日本に
破倫無道の習慣あり。

(二)
紅燈白晝を欺きて
絃歌の聲の湧くところ
活ける死骸の嬌々と
肉を鬻げるあさましさ。

(三)
神より承けし人格の
自由を金銀の枷にかけ
牛馬に劣る憂きつとめ
身は人にして人ならず。

(四)
朝夕を色餓鬼の
貪るまゝに放任せつゝ
肉を食はれ血を吸はれ
死にまさりたる生地獄。

(五)
生命に代へぬ貞潔の
花は浮世の風に散り
泥土に委せし無慙さを
心なき世は顧ず。

(六)
無告の涙千秋の
恨はあれど女氣の
弱きがまゝに日に月に
自暴の淵におぼれゆく。

(七)
あゝ大君の赤子をば
畜生道に墮しおき
かくて天下に道やある
かくて社會に法やある。

(八)
立て心ある人々や
自由博愛貞潔の
廓清の旗押し立てゝ
人道の爲め鬪はむ。

(參等)

廢娼の歌

書衣生

(一)
千古純白き芙蓉峰
仰がむ人の知らずやは
潔く崇く長しへの
玉の姿の麗しさ。

(二)
その靈山の氣を負へる
扶桑の民よ惟ひ見よ
我が文明は大正の
御代にも暗き陰無きや。

(三)
浦賀の砲に桃源の
夢愕いて五十年
『自由の聲』は寄せ來たる
潮とばかり湧き立ちて。

(四)
四民の墻は打ち壞れ
光遍き世となりて
津々浦々の民草も
君が惠みを怡しめる。

(五)
嗚呼さる中に淺ましや
手枷首枷さながらの
奴隷の境脱れ得ぬ
同胞あるが却られつ。

(六)
異しむ勿れ言ふだにも
汚辱極まる公娼てふ
制度の下に鞭受くる
日本國の婦女子ぞや。

(七)
黑奴廢止の俠を執り
熱血換へし北米の
燦たる歷史遠からず
起て我國も進のため。

(八)
正義の大旗風に推し
殪るゝまでも衝き斷め
『廢め公娼』と叫びつゝ
眞理に抵ふ敵は何。

(九)
夙く覺めたる西歐の
口々嘲み嗤ふ此の
醜惡の制度時知らに
捨てゝ措くべき忌はしさ。

(十)
泥みしまゝの慣より
痺れし心蘇へし
更に新に省みて
荊棘刈らむ秋や今

嬰兒の精神的育て方

婦人記者

○規律を正くする事

嬰兒は泣く事を毎日の仕事にして居るが如く絶えず泣いて居る。生れて一年位は言語を發することが出來ないから、何事でも泣いて訴ふるより外はないので泣くのであります。故に小兒の泣聲に注意さへすれば其意思を察することが出來るのであります卽ち或時は空腹の時もあるべく、或時は體に痛みを覺えし時もあるべく、又或時は我儘もありませう。唯一概に泣くは食を慾しがるのであると考へて、其都度乳を飮ませるが如きは、一は身體上の害にもなり、一は精神上の規律を破るので、遂には其兒一生を誤る端緒を開くことになる。善き乳を規律正しく飮ますれば其性質穩かに育ち、氣むつかしく物やかましくすることなく、やゝ長ずるも他の食物を紊りに欲しがる等の事もなくなるので、随つて駄菓子屋に走る等のこともなくてすみます。されば斯かる右も左も辨へぬ頃より自然に規律正しくして其德を磨く様にすることが肝要であります。たゞ乳を飮ます事のみではなく、何事でも規律を正しくすることが第一であります。

○自立心を養ふ事

小兒が石に躓きて倒るゝ事がありますと、小兒ながらも不注意にて倒れた事を自覺する様に仕向け、怪我せぬ程ならば自ら塵を打拂ひて起上るやうにさせねばなりません。其を一々駈け寄つて抱き起す習慣をつけますと、小兒は何時倒れても人が起して呉れさうなものだなと思つて起き上らないでをります。是が長じて來ると何事でも他人を賴む樣な心となつて立身の妨げになりますから、餘程注意して、自分で爲したる事は自分で始末する樣にさせねばなりません。轉んだ時罪もなき石を敲いたり、或は仇呼はりをするならば所謂復讐心を養ふもので。其結果は恐るべきものが御座います。小さい時から自立の氣風を起さしむる樣にして大抵の痛さにも怺へて泣かぬ樣の習慣を付けねばなりません。

○潔癖の習慣を作る事

鼻汁が出れば直ぐ拭き、汚れ物が出來れば直ぐ片付ける。其も小兒自身でなすことが出來る樣になつたなら、其度每に注意を與へて、自ら處分させる樣にするそして何時も嬰兒を清潔にして取扱へば嬰兒は其に馴れて不潔を厭ふ念が強くなり、麁相も多くなくてすむやうにもなります。此の綺麗好きの氣風は美術的の性情を養ふに至るものでありますから、是非とも清潔法に注意せねばなりません。唯此點に付いて清潔にする事を、美麗にすると誤り考へて、衣裳などに金をかけて立派な物を着せるのは大なる間違であります。着物の地は洗晒しの木綿でも唯垢がつかずさツぱりとする樣にするのが清潔にすると申すのであります。美しき衣類を着さするは、軈て虛榮心、贅澤心を起さする原となりますから、決して小

兒の内から絹物など着する者ではありません。着物や身の廻りの清潔なると同時に心の内も清らかに洗ふ様になります。

○勤儉の氣風を養ふ事

子の可愛さにあの衣裳もよし、此の玩弄物もよしと無闇に物を買與へて、子を親の玩弄物にする度が過ぎたるは甚だ宜しくない事であります。小兒は其等の物を路傍より拾ひ來りたる位に感じて、見る物をば何んでも欲しがり、驕奢の念が何時しか培養されて、一方人を見下す心が起ります。同じ玩弄物を與ふるにしても成るべく丈夫にして然も衛生的のもので、若破損する修覆し得らるゝものならば修覆し、破壞すれば直ちに捨つるが如き放漫の心を消失せしむるやうにせねばなりません。是が勤儉の德を養ふ第一歩となるのであります。

○誠實ならしむる事

小兒の心は鏡の如く、周圍の噓言も誠も差別なく映つて永劫に留まるものであります。されば小兒に向ひ苟且にも噓言を言はず、之と同時に誠實なる行爲ありし時は、其機會を利用して大に賞賛して其德を養ふ様にする。かの傲慢の心は不誠實よる起るものでありますから、些しの事にても德義に反するやうの行爲あらば、小兒として其儘にせず、徐に之が改善を謀り、百まで届く三つ兒の根性は何處までも直さねばなりません。却つて成長して其子の放蕩に泣かんより、幼時の善に培ふ事が容易であります。

▲石動支部の設立▼

大正二年七月七日、富山縣石動町メソヂスト教會に於て、牧師猪石友太郎氏の盡瘁によりて、同地に本會支部を設立する事となつた。左は發會式當日の狀況に就ての同地よりの通信である。

當支部發會式擧行に就て招待狀を印刷し、之を郡長、町長、警察署長、教育家、佛教家其他有志に發したり、辯士として高岡市日本基督教會牧師飯島瀰太郎 、金澤救世軍小隊長吉川大尉を招聘したるに、吉川氏は當日差障ありて缺席せられ、午後八時猪石友太郎氏開會の辭を述べ、富田檣三氏は、公娼制度は人格を無視したる奴隷制度にして一夫一婦の大倫を紊亂せしむるものなる事、日本帝國の國辱なることを論述し、飯島瀰太郎氏は「新時代の女性を論じ廓清會に及ぶ」と題し、新しき女と良妻賢母主義を論評し、蓄妾の弊を述べ群馬縣人が公娼を廢せんとして運動したる當時の痛快なる狀況を語りて反省を促し、最后に猪石氏は熱烈縮の如き辯舌を以て、公娼制度打破の急務を論じ、日來問題の根底には同胞の淫佚なる非行潛む事を擧げ熱心に廓清會へ入會を勸告し、何れも大喝采の裡に降壇、聽衆に多大の感動を與へて十時閉會したり。

○忍耐心を養ふ事

家族の者が小兒をあまやかすれば、其兒は弱蟲となり、他人と仲よく遊ぶ事など出來ぬ様になる。如何に幼兒とは云へ遊ぶ間に氣に入る事も入らぬ事もある。かゝる時には忍び耐へる事を敎へねばならぬ。躓いて倒れて痛さを感じたる時など假ひ泣いても構はずにおいて、之を忍耐さする様にすることが肝要であります暑さ寒さも體の害にならざるだけは忍耐せしむる様にせねばなりません。其には父母自身も亦物事に忍耐することが大切です。少し痛いからと云つて父や母や泣いたり呻つたりして見すると小兒も少しの痛さに泣く様になります。注意せねばなりませぬ。

▲大阪支部の事務所移轉

從來本會大阪支部事務所は西區土佐堀青年會館にあつたが、今回左の處に移轉したから、以後同支部員の會費の納入其他の事項は凡て同所宛にされたし

△北區中島六丁目六番地▽

家庭衞生瑣言

◉食物と長壽法

來月號には、大隈伯爵の『不老長生の秘訣』と題する談話を掲載する筈であるが、其中こゝに食物に關する一節を紹介して見やう。

『人間は長生をしたがるに拘らず、兎角大酒大食の惡習慣に陷り易いもので、百萬の敵を恐れぬ英雄も、酒の爲めには命をとられることがある。身體の健康を保つことも道德であつて見れば、これが修養は先づ飲食の慾を節することから始めねばならぬ。食慾も度を過ぐればまた身體と精神とを害することの甚しきものである。適度の運動をすると腹が減る、そこで食物を取ると消化がよくて營養になる。食物は肉でも野菜でも何でもよい。肉食が必しも滋養になるのではない。植物でも豆の如きは蛋白質に富んで居るから、豆腐や、納豆や、湯葉揚豆腐などを食へば、肉食すると殆んど同じ效能がある。併し儉約の爲めに豆腐を喰つて、肉に代へよと云ふのではない。金さへあらば牛肉魚肉もドシ／＼食ひ、また常に牛乳を飲むもよからう。併し長生きするには、何々の滋養品をとらねばならぬといふことは無い。食物は何でもよい、食つて旨いと思ふものは、大概滋養になる。

不老長生はまた精神修養の結果である健康を維持するには、滋養物や、呼吸法や、運動の力ばかりではゆかず、精神の力がまた伴はねばならぬ。病氣は氣の持ち方といふが、精神の強いものは病氣に冒されることが少く、罹つても樂よりか氣象でなほす、意志の弱い者が傳染病にでもなると、直ぐにも死ぬるやうに思つて、精神から先きに病氣に負ける爲め、有爲の才を抱きながら、年若くして墓場の人となる。肺病なども必しも不治の病ではない。ドンナ病氣でも必ず死病ときまつたものはない。精神が丈夫ならば、惡病にも打勝つことが出來る。精神はある場合に於て、肉體を支配するものだ。』

◉大谷嘉兵衛氏の攝生法

横濱の豪商大谷嘉兵衛氏は、已に七十歲の高齡であるが、壯者を凌ぐばかりに强健で病氣などには罹つた例がない。氏の養生法に三つの掟がある。それに就て氏の語るのを聞くと『第一は樂觀的精神で、病氣は氣から起ることが多い。私は心配事などがあつても、やがては我が爲になることゝ樂觀し、善い方へ考へ直して詰らない心配をしない。第二は節食節酒と禁煙である。酒は極めて少量を用ゐたが喫煙は若い時にはしなかつた。三度の食事は一回に麥飯を二杯喰べるのが普通で、特別空腹の時でなければ三杯と食したことがない。第三は鼻の掃除だ。鼻は萬病を呼ぶ處、之を大切にして毎朝洗面後缺かさず幾回も鼻より水を吸つて口に出す。これをやると精神も身體も頗に爽快を覺えて來る。以上の三つは四十年來一貫して嚴守して居る。』

◉麥食を奬勵す

某代議士曰く『吾々が米價に苦しむのは餘りに吾々が米食を重んじ過るのである。若し我々の食料品が、米以外の或種類のものを有して、必しも米にのみ便つて居なんだならば、僅か許りの供給増減の爲めに、其の價がこんなに妄りに高下するやうな事はないであらう。されば奮

儉時代に於て、人民をして米食を節約し、之に交ふるに麥、粟、甘藷等で間に合せ、殘つた米は全部、倉庫に貯藏して饑饉の時の爲めに備へをした。古人の用意は感心なものだ。又世界各國民の現狀を見るに獨逸の如きは生計最も簡易を尙び、中流以下の家庭にてはパンの外馬鈴薯を主食物として、決して一方に偏することがない。米國の下流社界でも、馬鈴薯は盛んに常用に供せらるゝ風があり、我國の人民が米食を重んずるに至りしは、近來社會奢侈の弊風に浸染したからで、吾人の祖先は曾て種々の雜食に甘んじた時代があるからして、今日米價暴騰の事あるを機會として、常食の工夫を一變する必要がある。」

◉白痴は酒から起る

白痴は腦髓の形勢の不完全から起るので甚しいのは死んで仕舞ふ。池田醫學士が巢鴨病院、白痴學校、保養院の三ヶ所に於ける白痴百四十人に就いて其の原因を研究した所によると、親が飲酒家であつたのが百人中二十三人强、生後の腦病に原因するもの百人中八人强、親が精神病であつたもの百人中七人强、親族又は二三等親が精神病であつたもの六人强、父母の血族結婚によるもの四人弱、遺傳梅毒に因るもの二人强、親の結核病に因るもの二人弱、胎生期に母の疾病によるもの及、難產によるもの各一人弱である。之によつて見ると、親の注意で白痴の子が出來ないやうに防ぐ事は、或程度まで出來るのである。殊にその二割三分の最大多數を占めて居る飲酒家の親などは、親の心掛で充分豫防が出來得るので、我等は今更ら酒の害の大なることを驚かすには居られぬ。

◉汽車と日本人の酒量

日本帝國一ヶ年間酒類の消費量は四百二十餘萬石にして、其代價は實に三億圓に上るといふ。偖東海道線の特別急行列車は、一列車十五萬圓、高いものだといふけれども、酒の代金に比べて見ると。二十分の一に過ぎぬ。卽ち一年間酒をやめたら、優良車が二千臺出來る譯である。又日本の鐵道の主要線を廣軌に改築するのも一ヶ年の酒代で澤山である。

▲大阪廓淸會大演說

來る七月二十四日(木)午後七時、大阪支部に於ては、本會理事内ヶ崎作三郎氏の、來阪を機とし、廓淸會大演說會を開く事となるべく、目下準備中なれば、最寄會員諸君は知人を勸誘し、奮つて參會せられたし。

▲朝鮮滿洲に於ける演說會

本會理事益富政助氏は去月中旬より滿鮮視察の途に上られたるが、京城、奉天、大連の三箇所に於て廓淸大演說會を開き、非常なる盛會を見たりし由。滿洲は殊に氏と緣故深く、日露戰役後數十人の醜業婦を獨力救濟せられたる關係あり、今日の同地救世軍婦人ホーム慈惠病院等は氏の奮鬪の片身なれば、同地有志者の盛んなる歡迎會ありしと。

▲本會役員の海外旅行

評議員江原素六、同服部綾雄、會計山本邦之助の三氏は、目下米國各地に於て日米問題解決の爲め盡瘁せられつゝあり。理事寺田四郎氏は本月二日獨逸へ留學の途に上らる。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

寄書

大連の十錢會

根岸連治

記者足下。

小生はこゝに當地に於て最近行はれたる一の不都合極まる大怪事を御報告申上げて、以て我國民道德上に警醒を與へ、我五千萬の同胞を覺醒せらるゝの資に供したきものと存じ候。

事件は折柄聖上陛下には御不例に亘らせられ皇室を始め奉り國民一般上下通じて愁雲に充され只管謹愼以て一日も早く御平癒あらんことを祈願すべきの時、豫て前より準備し置きたる十錢會と稱ふる單に娛樂を目的としたる大規模の宴遊會の内容に御座候。

よし宮内省より特別の思召の示達ありしにせよ單に自己の娛樂を目的としたる如きをば、この際差控へて謹愼を守るべきが國民としての當然の義務なるべし。今一家族の内に病める者あらんか其家族のものは只管に醫者よ藥よと心痛措かざるべし、今我國家の家長に亘らせらるゝ陛下の御不例に際して何故に敢て之をなせしか、實に矛盾の甚だしきとと存じ候。

新聞紙の報ずる處によれば當日の會衆無慮約三萬なりしと、記者足下、五萬に充たざる大連の人口に比して三萬の會衆は實に驚くべき大多數に候はずや、

その會衆の内には所謂紳士もあり、淑女もあり、老も若きもあり、而かも其過半は小兒なるに至つては愈々驚くの外は無之候。

第一これは國民道德上看過すること能はざる事實に候。我が國民は口を開けば即ち忠君愛國を稱ふ、然るに畏れ多くも我國民の最も畏敬すべき聖上御不例に時に當り、皇室の御深憂をも顧みず、市民擧つて卑しむべき藝酌婦の接待を受けて、其口を汚し、彼等の手踊に將又益にもならぬ競技に終日の快を貪つて平然たるに至つては、嗚呼實に言語同斷、天に慟し地に哭しても尙足らざるの有樣に候はずや。これをしも世界一の忠君愛國の民と云ひ得べきや。何故に彼等は我等の皇室のために自己の快樂を犧牲に供し得ざりしか嗚呼この民を如何。

某新聞紙は翌日其紙上に是が盛況を報じ最後に我國民の美點なりとて「聖上陛下御不例のため各自相戒めたる爲め、差したる事故もなし泥醉者さへ多く出さぬのみか平常なれば眞先に品切れとなるべき酒の今回は案外長く續きたる如き我國民の美點なるべし」と。記者足下、斯る些細なことが我國民の美點なりとはさても心細きことに候。

第二これは社會風教上由々敷事柄に候。約三萬の公衆は公々然と當日藝妓と云ふ賤業婦の接待を受けて飮食をなしたる譯に候、世にこれ程不都合なる事が外に有之べきか、而かも更に奇怪なりしは彼等賤業婦の公衆の面前に於ける手踊に候。三萬の會衆の内之を見て一人も怪む者なきに至つては社會の風教も全く地に墮ちたるの感無き能はず候。現時に於ける藝娼妓の跋扈も國民の墮落も少しも怪しむに足らず、實に歎はしきの至りに御座候。

當日救護班に加りし一看護婦の目擊のまゝを語るを聞けば或一人の立派なる紳士は泥醉して三四人の藝妓を抱へながら巫戲け居りし樣見るからに嘔吐を催したりとのことに候。又酒に醉ふたる彼等の或者は夕景に及びて支那人の馬車を驅り逢坂町(遊廓地)方面へ突進せしと云ふ驚くの外無之候。

第三これは又兒童教育上默過する能はざることと存候。先にも申述べし通り會衆の過半は兒童にて、これ等兒童は大低其親或は兄弟に引かれて行きし者多く候。

學校に於て如何に教師が倫理道德を說くとも社會と其家庭は斯の如き不義不德を認容し、之を其愛兒の觀覽するまゝにして怪まざるに於ては可憐なる兒童は何に其範を取るべきや、教育の力が社會風教上に效力なき少しも怪しむに足らざる事に候。

嗚呼、何故彼等はこの明々白々たる不條理を敢てして恥ぢざるか、曰く利己主義、自己の利益、快樂の外には國家も無く社會もなし只自己あるのみ。この我利々々主義こそ其大原因なれ、恐るべく憎むべきは實にこの自己主義に候、この恐るべき危險より救ふものは唯一途自己に死して神に生くるにあるのみ、これ基督降世の御目的にして人は唯キリストの裏に生きて始めて凡ての罪惡より救はるゝを得ることゝ存じ候。

聊か感ずる所を記して、社會廓淸の一資料に供し申候。

墮落書生の廢業妨害

『お前さんが、馴染娼妓を唆かしんだから、教唆罪で懲役だあね、學校の方だつて、さうなりや、退校されッちやうんでさ、ヘッヘッ』

と無氣味な笑ひ方をして、底光りのする眼で睨まれ、一縮みに縮みあがり、まんまと樓主の罠にかゝつて、廢業の申請をしてゐる處へ驅け込んで、娼妓の袖に取縋り、泣かぬ許りにして廢業を思ひ止まらせやうとした、醫學生の痴漢があつて飛んだ喜劇の一齣は、つい先月の五日品川の警察で演ぜられた。

事の起りは六月三日の正午頃、病にこそ窶れたれ、さ迄醜からぬ容緻の女が銀座の救世軍に尋ねて來たのに始まる。

本人は品川の大井樓今井マス方の娼妓大巻事生越トウ(二四)といふ者で、新潟縣長岡市に生れ、何不自由なく小學校を了へた後裁縫學校迄卒業したのであるが父が鑛山で失敗したゝめ、三百五十圓で身を沈むる事となつたのださうで、今月で滿三年と四月にもなり、お職を張つた事もあるが、兎角健康勝れず、追加借金など した事もなけれど借財は次第に嵩じ、今は七百圓といふ前借の倍にも上つてゐて御覧の通り病氣で休業してゐますと、涙乍に語つた。

併し乍ら本誌上に於て、讀者の知らるゝ通り、特に品川署には苦情續出し、曩には艶衣を二十日の拘留に處せんとし、次には若柳を窃盜罪として檢事局に起訴せんとし、先日は又途中に於て鶴子の衣類を追剝されたといふ樣な痛い眼に會つてゐるので、此邊の事を充分呑込ませた。

松田救世軍病院長から、右肺尖加答兒の徵候と胃潰瘍にて從來の業務に堪えざるものと認む、といふ診斷書を貰つて本人の衣類が明甕の借衣だといふから、小包で禮狀を添へて書留で送り返す等用意周到にして、五日品川署へ出頭すると係りの巡査が「毎度だから、どし／＼やつて了へ」と囁く聲が耳に這入る。樓主の味方をして、どし／＼拘留處分にでもしやうといふ意味か、或は省令に從ひ娼妓の權利を保護し樣との意味であらうか

保官は例によつて樓主を呼ぶ、三業組合の頭取が來る、他の樓主らしい者迄來るして、妥協せしめやうとする。廢業は合意の上させるから、勘當に明日朝迄待つてくれ、といふやうなお定りのうまい巧みな誘惑が繰返される。或は、お前が廢業すると非常に困る者が出來ると威嚇したり、明日迄待てば親にも迷惑のかゝらぬやうにしてやると騙したりしたが、此邊の處を豫め詳しくのみ込ませて置いたから、健氣に拒絶してゐる處へ、意外な妨害者が現はれた。

慈惠院醫學校の生徒で、芝愛宕下町相生館に止宿する淺見某(二十八)といふ者ださうであるが、此男が六月三日の朝、本人の病氣を見舞はんと品川八ッ山迄電車で來かゝる時、救世軍に救ひを求めやうと逃走して來た娼妓と出會ひ、打連れ立つて銀座迄來たといふ事實を、樓主の手段に乘つておぞくも、一も二もなく白狀し、樓主に本人の自廢が成立すれば、當然教唆罪として拘留處分を受け、名譽は毀損せられ學校は退校に定つてゐると脅喝され、青くなつて此場に飛出したもので、控所に居つた娼妓の袖に縋り、泣かん斗りに廢業を思ひ止まらん事を賴みたるは滑稽とも氣の毒とも淺ましいことであつた。幸に女は斷平として之を却けた『貴下は私の昔のお客で金にて操を賣つた迄である、廢業するとせざるとは貴下の干渉を許さぬ』と見事に痴漢を拒絶して無事廢業し、古郷へ喜び勇んで歸つた。

禍なる哉袋井町民

靜岡縣江尻町　矢崎喜三郎（投）

遠江國盤田郡袋井町貸座敷醉多樓伊藤德藏方抱娼妓漣事加山りう（二五）は、去る六月二十五日書面を當方に宛て送り越した。

要領は、父の病氣を救はんが爲めに今より六年前一百圓を借り受け、此憂き川竹に身を沈めたるが、寄る年波に身の行末を思ひ、毎夜の勤めが厭になり、殊に借金は目下四百七十圓に增し、何日の日に返濟せん見込もなく、遂に世を果敢なみ、自殺せんと思ひ立ちたる事さへありしが、偶々新聞紙上にて御所の救濟事業を耳にせしを以て御盡力を願ふ次第である。若し首尾よく廢業が出來ぬやうならば一思ひに鐵道往生するとの意味であつた。

▲

斯は捨て置き難しと同月二十七日午前九時余は袋井町に出張し、直に醉多樓に至り娼妓漣に面會し、本人の意志を確め警察署へ同行せんとしたるに、樓主不在なりしを以て樓主の實母に挨拶して漣を同道し、袋井分署に出頭したのは十一時であつた。余は署長香取清英氏に刺を通じ、漣に對する名簿削除申請の件につき、本人と同道せし旨を告げたるに、署長は一應漣に對し廢業に就ての動機其他詳細に取調られた折しも樓主德藏の母は頗る狼狽の體にて警察署に馳け來り、只今警官御出張漣に御用の趣に承り、早速誰も附添はせもせず差遣はしましたが、後て聞けば私が警官と思ひしは耶蘇教の教師なりとの事で、始めて驚き馳けつけ參りました、悴德藏不在の事なれば御樣子承知致度しと申立つる。署長は漣の決心の程を知らしめ、且樓主德藏を警察署に出頭せしむる樣命じて老母を歸宅せしめた。余は署長に向ひ本人が廢業の決心確なる以上は早速削除の手續を了せられたい、殊更樓主を召喚するの必要なからんと云へば、署長は德儀上樓主に遇ふの必要あれば暫時待たれよとの意見なれば、余は語をついで假令樓主が來るも本人の決心堅固なる上は如何共する能はざる事なれば、取締規則の明文にある如く直に削除相成り度しと再三陳述したけれども、署長は聞入るゝ樣子もなく、却つて余に向ひ被告人を訊問するが如き態度を以て余の原籍住所等を尋ね、且余が漣を教唆せしには非ずやなど詰問する、余は至極穩當ならざる處置とは思ふけれども、彼是抗辯するは娼妓の爲に不利益なりと心得、風に柳の挨拶して娼妓は事務室に余は控所に樓主の來るのを待受けた。

▲

待つてゐる間が餘り永いので署前に出て、學校歸りの兒童等を路傍に集め、飲酒喫煙の害を說き、若し父兄にして現に用ひてゐる者ならば、之を勸めて禁酒禁煙の實を擧げればならぬと說いてゐる中に、おいおい附近の人が集つて來たので、健實なる袋井町發展の爲め、子女教育の爲め、矯風の爲に公益の爲に貸座敷業者の撲滅を謀る事、止むなくんば現在營業者を町外に驅逐の手段を講ずるの急務なるを絕叫した。

警察署の前には屋根傾き壁破れて將に倒潰せんとする見苦しき大きな建物がある、隣家の人に何者の住所であつたかと尋ねた處、日本メソヂスト教會堂であつたが、二三年前水害の爲に破壞せられ其儘修繕もせず雨曝らしになつてゐるのだといふ事であつた。其裏に新築の立派な二階建がある、そこには袋井娼妓健康診斷所及袋井娼妓治療所と記せる大看板が二枚麗々しく掛つてゐる、そしてそれと肩を並べ靜岡縣巡查袋井警察分署詰林厄巳と記せる名札が掲げてある、不審に堪えかねて近所の人に尋ねて見れば、驚く可し二階は娼妓病院で下は巡查の宿所だといふ事である、余は唯暴然として了つた。

教會は荒れ果て狐狸の住み家となり敗殘の骸をさらし、娼妓病院は儼然としてそれを冷笑するやうに突立つてゐる、而もそれが巡查の宿所を兼ねてゐるといふのである、何たる事であらう、余は憤慨の余、言ひ知れぬ感に打たれて教會の中に駈け込んだ。見れば空

最穩健なる進步思想により青年女子の指導に任ず
創刊明治三十七年
女子青年界
十卷七號（七月一日發行）
一部五錢　一年五拾錢
振替東京貳參七貳參
東京市牛込區田町三ノ一二
日本基督教女子青年會發行

疊數の上に腐れ疊二枚立て掛けてあり、講壇と椅子とは泥土に塗れて橫はり、窓の硝子は破れ、壁は落ちて目も當てられぬ慘怛たる有樣に、彼を思ひ之を思ふて遂にごつと跪き、袋井町民の爲めに、神の國の建設せらるゝ日の近からん事を熱禱した。

▲

午後一時頃、六十にも近からんと覺ゆる　男入來り、署長に向つて漣の廢業を許可せざる樣嘆願し、それから漣と共に控所に來て余に向ひ、自分は當町貸座敷取締新久能樓々主安間庫三郎の實父四市郎といふ者なるが、今回漣の廢業には徹頭徹尾反對なりとて長たらしき理屈を並べ、間接に娼妓を壓迫せんと努めた、稍々あつて醉多樓の隣家なる興業師小林小太郎及樓主德藏の實弟圓次郎等控所に入り來り四市郎に語を添へ、漣に自廢を斷念せしめんと嚴談する故余は屢々彼等に注意を與へた。同三時頃漸く樓主德藏來り、暫く署長と語り、後漣に向ひ種々の口實を以て廢業を斷念せよと迫つたけれども、漣の決心牢として動す能はず、一同異口同音に勝手にせよ此方にも考有りと、さも樣子ありげに捨臺詞を殘して立去つた。

茲に於て余は漣と共に署長の面前に至り、取急ぎ削除の手續を致され度旨強請し、結局辛やく四時三十分漣は自由の身となつた。で直に警察署を出て、停車場にいつて見れば、數名の壯漢余等に近づき漣を罵倒し矢庭に暴行にも及ばんずる有樣なので、余は無論樓主の奸手段なるべきを想ひ、相手にするの不利なるを認め、本人を誘ふて同驛前の主にある兄弟なる丸太運送店方に避けて休憩し、六時上り列車を以て、無事同地を引揚げた。

堂々たる娼妓の病院を有し、而して神の教會を滅せる袋井町民は禍なる哉。（二年七月四日）

最近に於ける自由廢業娼妓

京都　風馳生（投）

自由廢業月日	債務金額	助力者	場所	原籍	氏名	生年月日
大正二年四月八日	四百圓	ナシ	名古屋市中區宮岡町河村清助方	名古屋市西區花木町六七はる二女	加藤くに	明治廿年十月十日
同　四月十日	四百五十圓	同	同吾妻町塚崎文次方	豊橋市大字清水六二雲野養女	大橋うめ	同廿二年九月十五日
同　四月十一日	四十圓	同	同常盤町山田イカ方	愛知縣丹羽郡樂田村佐吉二女	服部しき	同廿五年二月四日
同　四月十二日	六百圓	同	同宮岡町栗本捨次郎方	名古屋市西區馬喰町猪太郎妹	吉田きやう	同廿年六月十日
同　四月廿一日	百六十圓	同	同同山下紫之助方	岐阜縣羽島町足近村柳治妹	林　まつよ	同廿二年五月廿九日
同　四月廿九日	百八十圓	岡山上田文吉	岡山縣邑久郡牛窓町馬場寛一方	香川縣香川郡栗林村戸主	渡邊しげ	同廿六年七月十三日
同　五月十日	不明	ナシ	橫濱市永樂町一丁目中村芳三郎方	橫濱市久保町八七二吉五郎長女	磯崎トシ	同廿六年十月廿九日
同　五月十六日	二百圓	同	岡山市大字東中島廣田八重方	香川縣三豐郡山田村字國田	安藤ハギ	同廿四年十二月
同　五月十九日	四百圓	不明	長野市鶴賀新地金井折三郎方	新潟縣古志郡荷村與次郎二女	宮島ハル	同廿六年十二月十日
同　五月廿三日	一千圓	廓清會	橫濱市永樂町一丁目加藤龜太郎方	橫濱市南吉田町七八〇梅吉四女	山田ハナ	同廿七年十月
同　五月廿四日	不明	不明	神奈川縣高座郡藤澤町加藤誠司方	東京市日本橋區呉服町戸主	小池まきば	同十二年十一月
不詳	同	不詳	石川縣珠洲郡小木村勝尾ゆき方	富山縣富山市木町五二次平四女	近藤コト	同十五年三月廿一日

汝の子を汚して娼妓の業をなさしむ可からず恐らくは淫事國に行はれ罪悪國を亡さん（利未記十九章）

△救世軍娼妓救済係が取扱いたる自明治四十五年七月至大正二年六月一年間の自由廢業

場所	妓名	成否
品川本宿新開盛樓淺野幸三郎方	君香	削除濟
洲崎辨天町二武藏樓佐藤やゑ方	小稻	同
洲崎辨天町若松支店小林倉吉方	八重子	同
新吉原揚屋町山田樓鹿田金太郎方	かほる	同
大阪市裏新町星川樓星川うの方	深雪	同
新吉原京町東海樓黒阪吉之助方	雲井	同
新吉原角町稻辨樓小林辨三方	初音	同
新吉原揚屋町定河内樓生田こよ方	關尾	同
品川新宿三福樓福田京方	艶衣	同
内藤新宿大倉樓登阪方	若柳	同
大阪松島白瀧樓戸崎喜八郎方	梅ヶ枝	同
新吉原京町清鴨井樓大原きよ方	小櫻	同
横濱市永樂町第一勢洲矢島方	金龍	同
右同所	龍田	意志薄弱
洲崎辨天町菊松本樓穂積きく方	小春	削除濟
新吉原江戸町千成樓小池方	小町	意志薄弱
品川新宿大奮樓高橋さだ方	若柳	削除濟
洲崎辨天町住吉樓足立益之助方	萬龍	同
新吉原揚屋町松大黒樓石野もん方	紫君	同
右同所	若葉	同
洲崎辨天町平野樓平野幸三郎方	萬龍	同
新吉原江戸町西海樓黒阪方	歌丸	意志薄弱
洲崎辨天町梶野樓梶田信太郎方	濱萩	削除濟
新吉原揚屋町定河内樓生田方	久方	同
新吉原江戸町勢洲樓大貫かれ方	初菊	同
新吉原江戸町大文字樓波木井方	玉菊	同
洲崎辨天町高喜樓高橋雄三方	櫻木	同
新吉原江戸町昇辰樓森本かれ方	玉鞍	意志薄弱
横濱永樂町金清樓加藤龜太郎方	松山	削除濟
神奈川縣藤澤町月見樓山口方	松露	同
新吉原角町玉河内樓池野方	千鳥	同
同京町君津樓鈴木とめ方	花紫	同
洲崎辨天町住吉樓足立益之助方	信夫	同
右同所	菊龍	同
横濱市永樂町一日月樓和田方	若竹	同
洲崎辨天町新八幡並木方	靜	同
右同所	高篠	同
横濱市永樂町梅本樓田多彌一方	八重菊	同
洲崎辨天町中野樓高井なか方	此糸	同
新吉原角町塚本樓塚本けい方	小櫻	同
洲崎辨天町河内樓山田龜之助方	花遊	同
右同所	いろは	同
吉原角町三河樓鵜田やす方	桃山	意志薄弱
洲崎辨天町第一新梅川樓渡邊方	重ノ井	削除濟
右同所	米子	同
新吉原角町一力樓加藤まん方	主水	意志薄弱
洲崎辨天町柏樓野口きの方	小柳	削除濟
品川新宿開盛樓木村ふゆ方	鶴子	同
洲崎辨天町鈴八幡澤邊すゞ方	松技	發狂
内藤新宿豐多摩樓須田方	みどり	削除濟
洲崎辨天町忠梅川樓岡元治郎方	花遊	同
洲崎辨天町米住吉樓中村方	玉菊	同
洲崎辨天町大八幡樓中村常造方	清香	同
板橋町新藤樓伊藤金五郎方	小稻	意志薄弱
内藤新宿新玉樓金子順正方	壽	削除濟
横濱市永樂町金清樓加藤方	彌生	同
新吉原京町吉河内樓池野方	靜	同
品川新宿大井樓今井こま方	大卷	同
洲崎辨天町井筒樓有阪わか方	淺川	削除濟
新吉原角町中彦太樓山田ます方	常盤	同
新吉原角町中彦太山田ます方	吉野	同
釆吉原揚屋町松大黒樓石門方	千山	同
品川新宿開盛樓木村フユ方	淺妻	同
洲崎辨天町大阪樓岸本幸次郎方	大淀	同
新吉原角町中彦太樓山田ます方	敷島	同

總件數六五、内意志薄弱にして折角の志を翻したるもの樓主の甘言に惑ひ處決する能はずして廢業の意志を達し得ざりし者等が八人ある希くば我此可憐なる姉妹の將來の上に、豐なる神に御恩寵を垂れ給ふて、正しく清く、幸福なる生涯を送らしめ給へ。

正誤 前號油谷次郎七氏の肩書に就て記者の誤解から左の取消が來たから全文を掲げて正誤す。

七月號に小生の肩書としてマスターオブアーツとありましたが小生の全く知らぬことです。小生は米國紐育のコロンビヤ大學で數年前ドクトルオブフイロソフイーの試驗をすましたが、マスターオブアーツの候補者になりしことはありませぬ。肩書は好まぬのですから、たゞ油谷だけにして下さい。

THE NANKOIN HOSPITAL

Chigasaki, Kozagori. Sagami. (Near Oiso)

UNDER THE MANAGEMENT OF

Dr. K. TAKATA.

Within a few minutes from the Chigasaki Railway Station

Healthiest Situation

FACING THE SAGAMI BAY

FINE SCENERY

Telephone : Chigasaki No. 2.

▲入院は診斷後隨時需に應ず

松田、林、峰間三副長は目下當院に在勤

電本 八八八番(病院用) 八九八番(自宅用)

東洋内科醫院

東京市神田區駿河臺鈴木町二番地、御茶水橋附近

院長 醫學士 高田畊安

神奈川縣高座郡茅ケ崎町柏海濱、停車場より半里

電チガサキ:二番

南湖院

河野、高橋兩副長は目下當院に在勤

▲院長渡歐中の處先般歸朝す

修容は婦徳の第一歩

端正の精神は端正の容儀に宿る

常にクラブ洗粉を用ゐて氣高き素顔の美を増されよ

朝夕クラブ白粉を用ゐて床しき薄化粧を整へられよ

毎朝クラブ齒磨を用ゐて口齒を淨め精神を爽かにせられよ

斯くして信仰深き御身の品位と健康とを保ち給ふべし